

工 事 設 計 書

所 属 部 課 名		建設部 下水道維持課					
部長	審議監	審議監	課長	補佐	主査	設計者	審査
工 事 名 称		小山ポンプ場耐水化工事					
工 事 場 所		松戸市小山180番地					
事 業 年 度		令和 7 年度					
工 事 価 格		一金、 円					
工 事 費 計		一金、 円					

松 戸 市

設 計 概 要	(1) 土木工事 耐圧板の設置	1式
	(2) 建築工事 止水板及び防水ドア設置	1式
	(3) 電気設備工事 ケーブル止水処理	1式

工 事 内 訳 書 (合 算)								
費 目	工 種	種 別	細 別	単位	数 量	単 価	金 額	摘 要
工 事 費								
	直接工事費	土木		式	1			
		建築		式	1			
		電気		式	1			
		計		式	1			[直接工事費]
	共通仮設費	土木		式	1			
		建築		式	1			
		電気		式	1			
		計		式	1			[共通仮設費]
	純工事費	土木		式	1			
		建築		式	1			
		電気		式	1			
		計		式	1			[純工事費]
	現場管理費	土木		式	1			
		建築		式	1			
		電気		式	1			設計技術費を含む
		計		式	1			[現場管理費]

工 事 内 訳 書 (合 算)								
費 目	工 種	種 別	細 別	単位	数 量	単 価	金 額	摘 要
	工事原価	土木		式	1			
		建築		式	1			
		電気		式	1			
		計		式	1			[工事原価]
	一般管理費等	土木		式	1			
		建築		式	1			
		電気		式	1			
		計		式	1			[一般管理費等]
	スクラップ控除	土木		式	1			
		建築		式	1			
		計		式	1			[スクラップ控除]
	工事価格	土木		式	1			
		建築		式	1			
		電気		式	1			
		計		式	1			[工事価格]
	消費税及び地方消費税相当額 (10%)			式	1			
工 事 費 計				式	1			

内 訳 書 (土 木)								
費 目	工 種	種 別	細 別	単位	数 量	単 価	金 額	摘 要
工事費 (土木)								
	直接工事費							
		耐圧蓋新設		式	1			第 1 号内訳書
	直接工事費計			式	1			
		共通仮設費		式	1			
	純工事費			式	1			
		現場管理費		式	1			
	工事原価			式	1			
		一般管理費等		式	1			
		スクラップ控除		式	1			第 2 号内訳書
	工事価格			式	1			
		消費税及び地方消費税相当額		式	1			10%
工事費計				式	1			

内 訳 書 (建 築)								
費 目	工 種	種 別	細 別	単位	数 量	単 価	金 額	摘 要
工事費 (建築)								
	直接工事費							
		直接仮設		式	1			第 3 号内訳書
		外壁撤去		式	1			第 4 号内訳書
		外壁改修		式	1			第 5 号内訳書
		建具撤去		式	1			第 6 号内訳書
		建具改修		式	1			第 7 号内訳書
		空調設備改修		式	1			第 8 号内訳書
		空調設備撤去		式	1			第 9 号内訳書
		発生材処分		式	1			第 1 0 号内訳書
	直接工事費計			式	1			
		共通仮設費		式	1			
	純工事費			式	1			
		現場管理費		式	1			
	工事原価			式	1			
		一般管理費等		式	1			
		スクラップ控除		式	1			第 1 1 号内訳書
	工事価格			式	1			
		消費税及び地方消費税相当額		式	1			10%
工事費計				式	1			

内 訳 書 (電 気 設 備)								
費 目	工 種	種 別	細 別	単位	数 量	単 価	金 額	摘 要
工事費（電気設備）								
	直接工事費							
		材料費						
		直接材料費	その他器具	式	1			第12号内訳書
		補助材料費		式	1			
			小 計	式	1			
		労務費						
			一般労務費	式	1			第13号内訳書
			小 計	式	1			
		直接経費						
			機械経費	式	1			
			小 計	式	1			
		仮設費（率計上）		式	1			
	直接工事費計			式	1			
	間接工事費							
		共通仮設費		式	1			
	純工事費			式	1			
		現場管理費		式	1			
	据付工事原価			式	1			
		設計技術費		式	1			
	工事原価			式	1			
		一般管理費等		式	1			

[illegible]

第 1 号 内訳書		耐圧蓋新設					
							1 式
名 称	規 格 ・ 寸 法	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要	
耐水圧マシンハッチ	有効開口 1800*900 完全防水 輸送費共	組	4				
耐水圧マシンハッチ	施工費	組	4				
現場発生品及び支給品運搬		t	1.6				
現場発生品及び支給品積込・荷卸		t	1.6				
ケミカルボルト	M16 150L ステンレス製	本	64				
座金	M16 平ワッシャー ステンレス製	本	64				
ナット	M16 六角ナット ステンレス製	本	64				
樹脂カプセル		本	64				
M16アンカー打設手間		本	64				
門型クレーン（走行装置）	定格荷重98kN・10t用	日	5				
既設止水板撤去		か所	4				
合 計							

第 2 号 内訳書 スクラップ控除（土木）						
1 式						
名 称	規 格 ・ 寸 法	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
スクラップ	スチール	t	1.6			
合 計						

第 3 号 内訳書 直接仮設						
1 式						
名 称	規 格 ・ 寸 法	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
墨出し	外部改修	m2	8.2			
養生	外部改修	m2	41.8			
整理清掃後片付け	外部改修	m2	41.8			
合 計						

第 4 号 内訳書 外壁撤去						
1 式						
名 称	規 格 ・ 寸 法	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
カッター切	コンクリート面	m	35.2			
RC床はつり		m2	2.2			
犬走りコンクリート撤去		m3	0.2			
捨てコンクリート撤去		m3	0.1			
砕石地業撤去		m3	0.1			
カッター切	モルタル面	m	1.5			
床丸モザイクタイル撤去	下地共	m2	0.6			
壁二丁タイル撤去	下地共	m2	0.1			
リシン吹付撤去		m2	1.5			
縦樋撤去	VP100	m	1.5			
フロアヒンジ撤去		か所	2			
合 計						

第 5 号 内訳書 外壁改修						
1 式						
名 称	規 格 ・ 寸 法	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
根切り	つぼ、布掘り 深さ2.5m程度	m3	3.0			
埋戻し	根切り土流用	m3	1.3			
場内敷き均し		m3	1.8			
床付		m2	3.5			
再生クラッシャー	基礎下	m3	0.4			
再生クラッシャー	土間下	m3	0.2			
異形鉄筋	SD295 D10	kg	102			
異形鉄筋	SD295 D13	kg	49			
鉄筋加工組立		kg	145			
鉄筋運搬費		kg	145			
溶接金網	φ 6-100*100	m2	1.9			
溶接金網施工手間		m2	1.9			
接着系アンカー	D13 8da ナット付き 横向き	本	14			
接着系アンカー	D16 8da ナット付き 横向き	本	5			
小 計						

第 5 号 内訳書 外壁改修						
1 式						
名 称	規 格 ・ 寸 法	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
捨てコンクリート	FC-18N/22m S15	m3	0.3			
土間コンクリート	FC-18N/22m S15	m3	0.5			
鉄筋コンクリート	FC-24+3N/m2 S18	m3	1.8			
コンクリート打設手間	捨て	m3	0.3			
コンクリート打設手間	土間	m3	0.5			
コンクリート打設手間	防護壁	m3	1.8			
目荒らし	壁	m2	0.8			
水膨張型止水ゴム	20*10	m	3.3			
普通型枠	基礎部	m2	4.2			
打放型枠	B種 地上部	m2	11.1			
型枠運搬費		m2	15.3			
打放面補修	B種	m2	11.1			
打継目地	20*15	m	5.0			
小 計						

第 5 号 内訳書 外壁改修						
1 式						
名 称	規 格 ・ 寸 法	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
シーリング	打継目地 PS-2 20*15	m	5.0			
シーリング	止水板枠廻り PS-2 20*15	m	19.2			
シーリング	開口閉鎖廻り MS-2 15*10	m	2.9			
シーリング	建具廻り MS-2 15*10	m	5.6			
豎樋	VP100	m	2.3			
豎樋エルボ		個	2			
開口閉鎖ステンレス鋼板	t2 W350*H350	m2	0.12			
開口閉鎖ステンレス鋼板	t2 W340*H400	m2	0.14			
止水板	W3000*H550	か所	1			
止水板	W3670*H850	か所	1			
止水板	W2600*H1050	か所	1			
止水板	W1100*H1050	か所	1			
止水板	W3640*H600	か所	1			
止水板施工費		式	1			
小 計						

第 5 号 内訳書 外壁改修						
1 式						
名 称	規 格 ・ 寸 法	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
犬走コンクリート金罎 仕上げ		m2	2.8			
防護壁笠木コンクリート 金罎仕上げ	W200	m	4.3			
止水板下枠モルタル充填		m	14.0			
緩衝材	エラストイトt20	m2	0.9			
水膨張型止水ゴム	20*10 開口閉鎖廻り	m	2.9			
フロアヒンジ		か所	2			
フロアヒンジ設置手間		か所	2			
電線支線取外し再取付		式	1			
小 計						
合 計						

第 6 号 内訳書 建具撤去						
1 式						
名 称	規 格 ・ 寸 法	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
AD-1アルミ製建具撤去	W800*H2000	か所	1			
建具周囲はつり		m	5.6			
合 計						

第 7 号 内訳書 建具改修						
1 式						
名 称	規 格 ・ 寸 法	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
SD-1片開き防水ドア	W800*H2000	台	1			
防水ドア施工費		式	1			
建具廻りモルタル詰	防水材入り	m	5.6			
DP塗り	鋼製建具面	m2	4.6			
合 計						

第 8 号 内訳書

空調設備改修

1 式

名 称	規 格 ・ 寸 法	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
パッケージエアコン 取外し再取付	冷房能力7.1kW 壁面架台共	台	1			
冷媒用断熱材被覆銅管	9.52mm 液管	m	1			
冷媒用断熱材被覆銅管	15.88mm ガス管	m	1			
ドレン用塩ビ管	屋内一般 25A	m	2			
配管保護カバー	樹脂製	m	1			
合 計						

第 9 号 内訳書 空調設備撤去						
1 式						
名 称	規 格 ・ 寸 法	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
冷媒用断熱材被覆銅管撤去	9.52mm 液管	m	1			
冷媒用断熱材被覆銅管撤去	15.88mm ガス管	m	1			
ドレン用塩ビ管	屋内一般 25A	m	2			
配管保護カバー撤去		m	1			
配管切断費		式	1			
合 計						

第 10 号 内訳書 発生材処分						
1 式						
名 称	規 格 ・ 寸 法	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
発生材積み込み	コンクリート製 人力	m3	0.6			
発生材運搬費	ダンプトラック 2t積級	台	1			
発生材処分費	無筋コンクリート廃材	t	0.9			
発生材処分費	廃プラスチック	m3	0.01			
合 計						

第 11 号 内訳書 スクラップ控除（建築）						
1 式						
名 称	規 格 ・ 寸 法	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
スクラップ	スチール	kg	12			
スクラップ	アルミ	kg	24.3			
スクラップ	銅くず	kg	1.2			
合 計						

第 12 号 内訳書 その他器具						
1 式						
名 称	規 格 ・ 寸 法	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
シーリング処理	既設PB 300*300*250	個	1			
シーリング処理	既設PB 150*150*150	個	1			
シーリング処理	既存PB 150*150*100	個	1			
シーリング処理	既設ケーブルダクト 600*350	個	1			
貫通部シール処理	樹脂モルタル充填	個	4			
合 計						

第 13 号 内訳書

一般労務費

1 式

名 称	規 格 ・ 寸 法	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
電工		人				
合 計						

小山ポンプ場耐水化工事 仕様書

1. 工事事目的

本工事は、松戸市下水道施設耐水化計画に基づき、小山ポンプ場の洪水時における揚水機能を確保するための耐水化工事を行うものである。

2. 工事概要

- | | | |
|----------|------------------------|----|
| (1) 土木工事 | 流入ゲート点検蓋を耐圧板に設置する | 1式 |
| (2) 建築工事 | 扉・シャッター部に止水板、防水ドアを設置する | 1式 |
| (3) 電気工事 | 屋外ケーブル貫通部を止水処理する | 1式 |

3. 工事場所

松戸市小山180番地

4. 工事期間

契約締結日の翌日から令和8年3月27日まで

5. 仕様書、基準等の適用

設計図書等において特に定めのない事項については、次の文献等に準拠し、施工、品質管理等に努めること。

- ・千葉県土木工事標準仕様書
- ・公共建築工事標準仕様書

6. 工事用電力、用水等

本工事施工に必要な電力、用水、用地は無償で支給するが、これらに要する仮設材料等は請負者の負担とする。工事に必要な電力、用水の取り出し及び用地の位置は監督員の指示する場所とし、極力節水、節電に努めること。

7. 建設副産物の処分

本工事で発生した産業廃棄物は請負者の処分とし、適切に処分すること。特に、金属類等については有価物として処分すること。

8. 既存施設への影響

本工事は施設機能を確保しながらの施工となる。施工内容及び工程については事前に維持管理者と調整のうえ、維持管理及び保守点検等に支障がないようにすること。

また、現地作業内容・手順等を十分検討の上、養生等の事前処置及び復旧を適切に実施し、施設の運転に支障がないように施工すること。

9. 降雨時の対応

本施設は雨水ポンプ場であり、大雨、台風等の多量の雨水流入が予測される場合は施設運転を優先とすること。

10. 発注データの貸与

完成図面作成等の利用に供するため、発注図面のCADデータを受注者に貸与する。提供するCADデータは、本工事の施工以外の目的に使用してはならない。

11. 週休 2 日制適用工事

本工事は週休 2 日制適用工事である。

受注者は現場閉所による週休 2 日工事として取り組むこと。なお、予定価格には月単位の週休 2 日(4 週 8 休以上)達成相当の経費を補正している。

週休 2 日制の実施にあたっては「松戸市建設工事週休 2 日制適用工事实施要領」に基づき行うこと。

受注者は、現場着手前に対象期間について監督職員と協議し、現場閉所予定日がわかる工程表等を監督職員に提出すること。

受注者は毎月の工事履行報告書を提出すること。

12. 熱中症対策に資する現場管理費の補正の試行工事

本工事は、熱中症対策に資する現場管理費の補正を試行する対象工事とする。

受注者は契約後速やかに、本試行の適用について監督職員と協議すること。

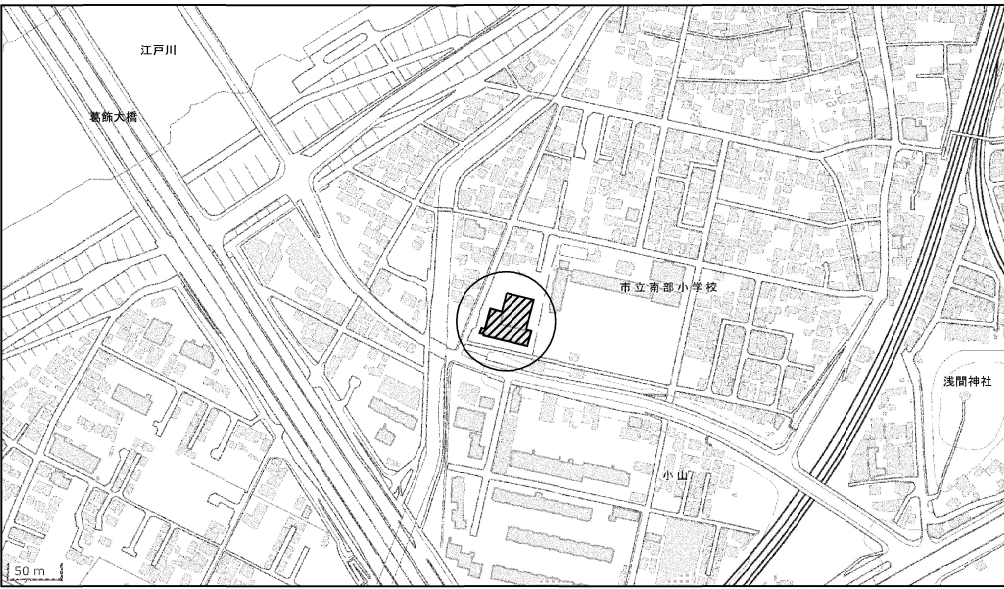
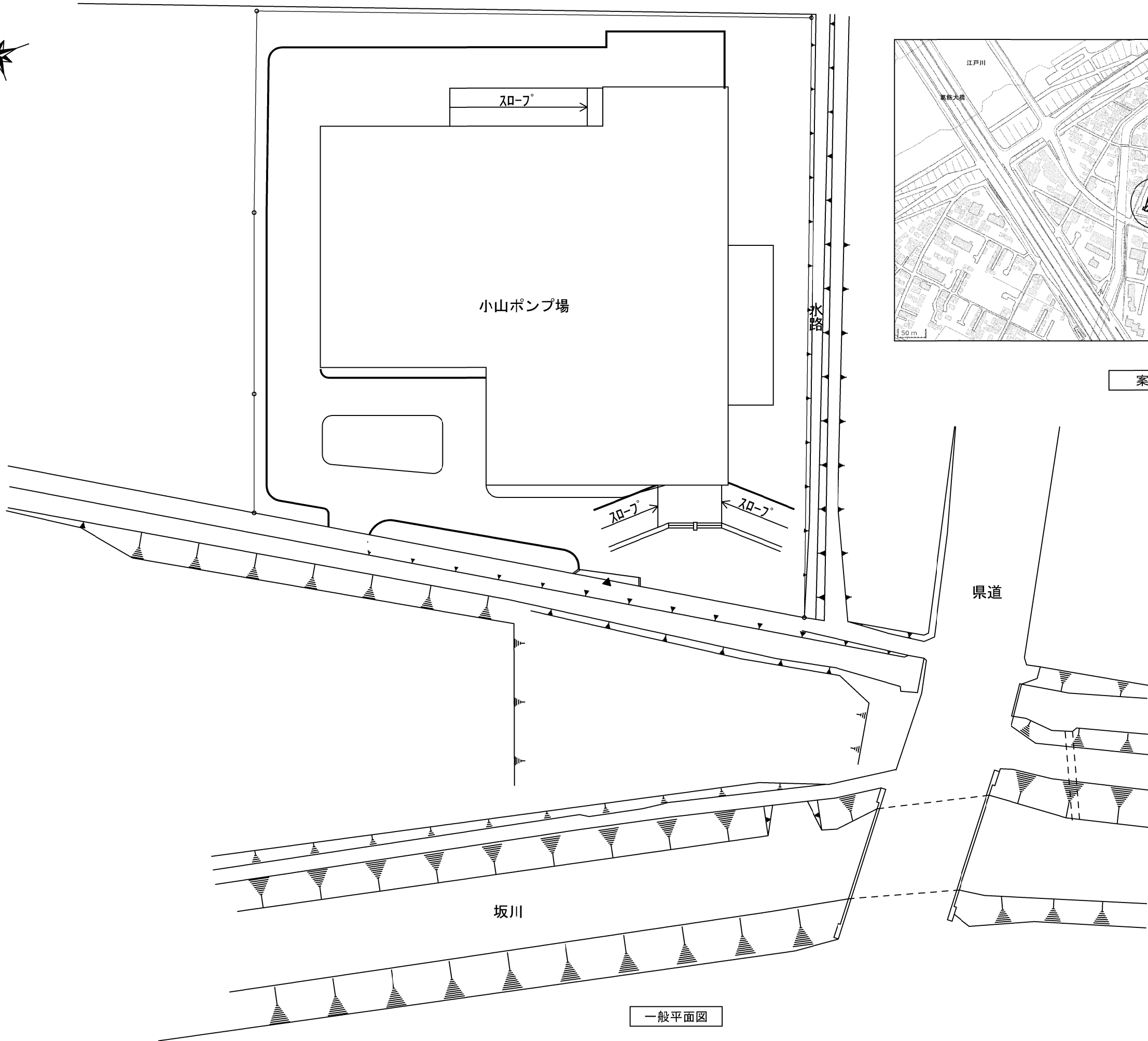
工事の実施にあたっては「松戸市熱中症対策に資する現場管理費の補正の試行要領」に基づき行うこと。

13. 他工事への影響

対象施設において、別途工事及び修繕を実施予定であるため、錯綜する箇所の施工にあたっては、工程等を調整すること。

図 面 目 録

図番	図 面 名 称	縮 尺	図番	図 面 名 称	縮 尺
C-01	一般平面図・案内図	1/200	A-13	開口閉塞詳細図(改修前後)	1/30
C-02	耐圧蓋設置図	図示	A-14	止水板設置詳細図(改修前後)	1/50
C-03	耐圧蓋詳細図	図示	A-15	防護壁+止水板設置詳細図(改修前後)	図示
A-01	建築改修工事特記仕様書(1)	—	A-16	止水板詳細図	1/20
A-02	建築改修工事特記仕様書(2)	—	A-17	建具改修詳細図(改修前後)	図示
A-03	建築改修工事特記仕様書(3)	—	AM-01	室外機改修詳細図(改修前後)	図示
A-04	建築改修工事特記仕様書(4)	—	PE-01	一階平面図	1/100
A-05	建築改修工事特記仕様書(5)	—			
A-06	建築改修工事特記仕様書(6)	—			
A-07	建築改修工事特記仕様書(7)	—			
A-08	構造細目共通図	—			
A-09	1階・地下1階平面図・外部仕上表	1/200			
A-10	東立面図(改修前後)	1/100			
A-11	北立面図(改修前後)	1/100			
A-12	西立面図(改修前後)	1/100			



案内図

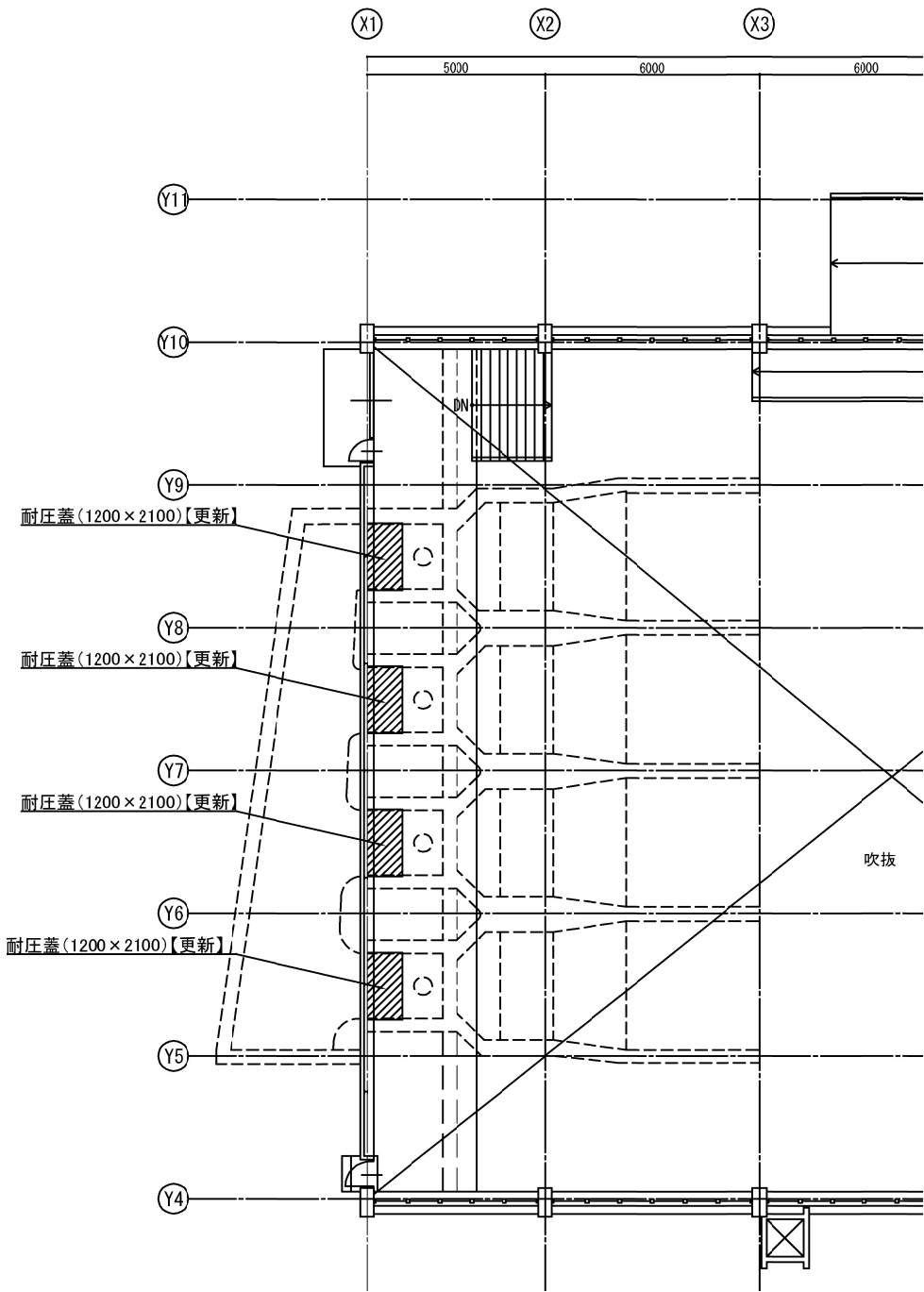
【凡例】	
	敷地境界線
	敷地出入口

令和 7 年度	
工 事 名	小山ポンプ場耐水化工事
工事場所	松戸市小山180番地
図面種別	一般平面図・案内図
縮 尺	A1: 1/200 A3: 1/400
図面番号	全 22 葉ノ内 C-01 号
松戸市建設部下水道維持課	

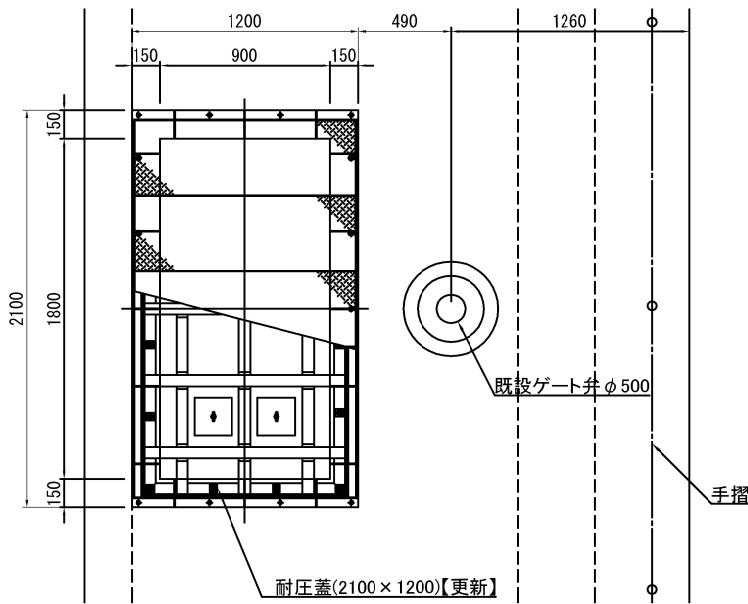
一般平面図

耐圧蓋設置図

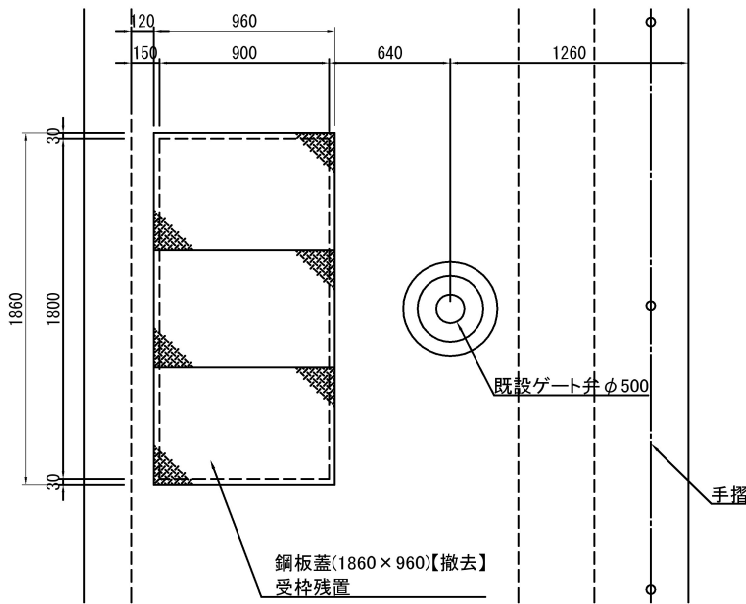
位置図 S=1/100



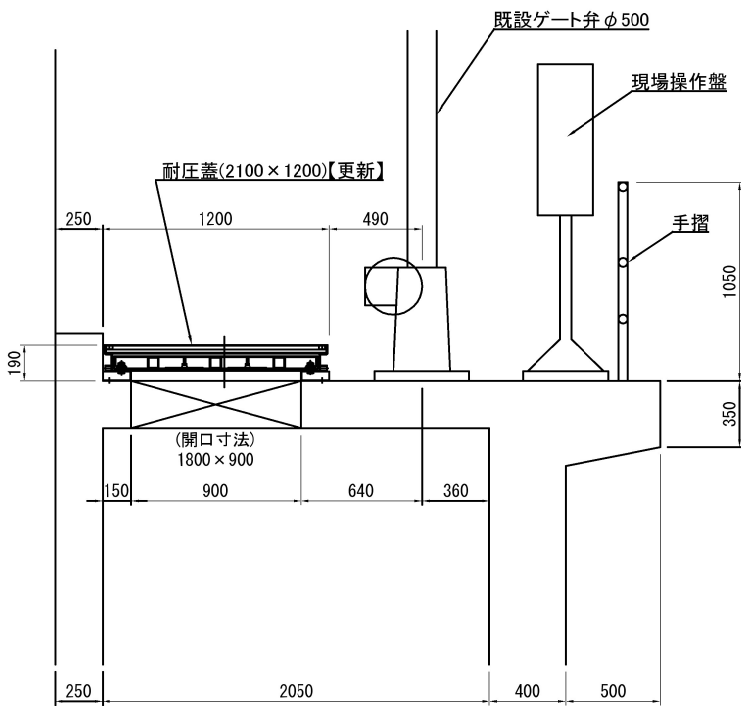
耐圧蓋設置平面図 S=1/20



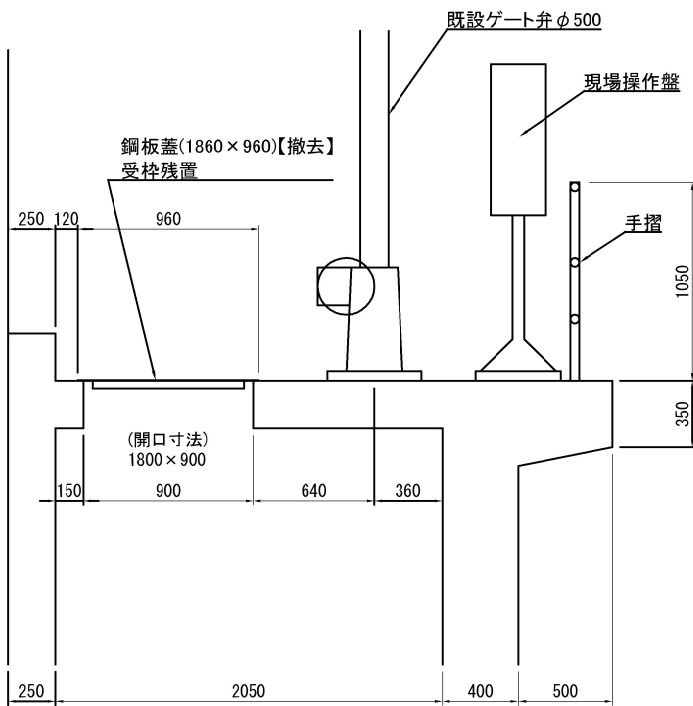
鋼板蓋撤去平面図 S=1/20



耐圧蓋設置断面図 S=1/20



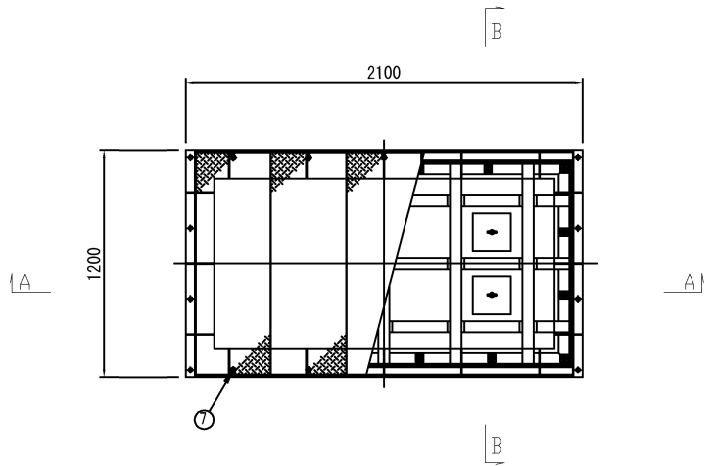
鋼板蓋撤去断面図 S=1/20



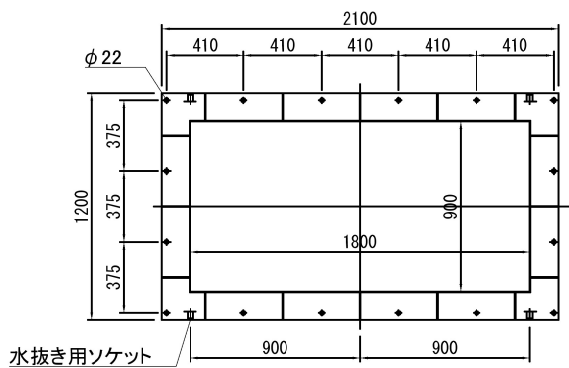
令和 7 年度	
工 事 名	小山ポンプ場耐水化工事
工事場所	松戸市小山180番地
図面種別	耐圧蓋設置図
縮 尺	図 示
図面番号	全 22 葉ノ内 C-02 号
松 戸 市 建 設 部 下 水 道 維 持 課	

耐圧蓋詳細図(1)

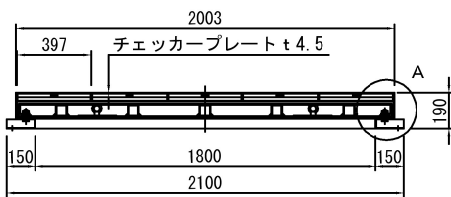
平面図 S=1/20



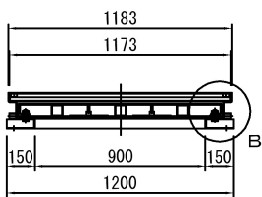
アンカー穴・水抜き用ソケット位置図 S=1/20



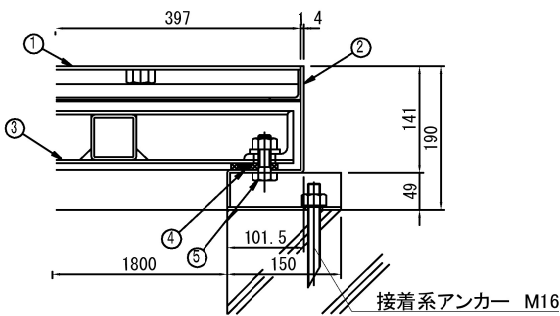
A-A断面図 S=1/20



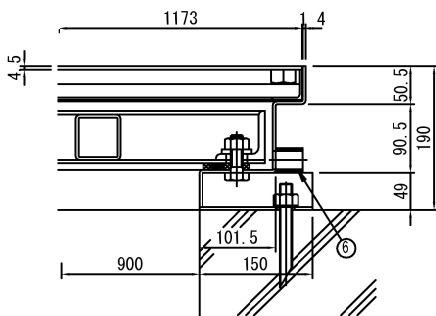
B-B断面図 S=1/20



A部拡大図 S=1/5



B部拡大図 S=1/5



品番	部品名	材質	個数	備考
1	蓋	SS400	5	溶融亜鉛めっき
2	受枠	SUS304	1	
3	中蓋	SUS304	1	
4	パッキング	NBR	1	
5	締付ボルト	ステンレス	16	M16
6	水抜き用ソケット	SUS304	4	20A
7	保護キャップ	EPDM	10	No. H

仕様
1) 耐水圧0.05MPa対応・歩行型

〈参考重量〉
蓋 1 枚： 2 4 k g
中蓋： 1 8 4 k g
受枠： 9 6 k g

令和 7 年度	
工 事 名	小山ポンプ場耐水化工事
工事場所	松戸市小山180番地
図面種別	耐圧蓋詳細図
縮 尺	図 示
図面番号	全 2 2 葉ノ内 C-03 号
松 戸 市 建 設 部 下 水 道 維 持 課	

I工事概要

1. 工事場所

松戸市小山180番地(小山ポンプ場)

2. 敷地面積

3,458.21㎡

3. 工事種目

棟名称

小山ポンプ場

構造

RC造

規模

地上2階／地下1階

建築面積

1,352.69㎡

延べ面積

1,978.68㎡

竣工年

1972年

工事項目

建築耐水化改修工事一式

4. 工事内容

外壁工事(開口閉塞)、建具改修工事(防水ドア新設)、耐水化工事(止水板等新設)

5. 工事範囲

今回の建築工事の工事内容は、下表において、■印のものとする。
詳細は、仕上り表、工事区分一覧表及び図面による。

工事内容	前回工事	今回工事	次回工事		備考
防水改修					
外壁改修		■			
建具改修		■			
内装改修					
塗装改修		■			
耐震改修		■			
環境配慮改修					

II工事仕様

1 共通仕様

(1) 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、下記による。
1) 国土交通省大臣官房官庁営繕部「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)令和4年版」(以下「標準仕様書」という。)による。
2) 国土交通省大臣官房官庁営繕部「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)令和4年版」(以下「改修標準仕様書」という。)

(2) 土工事、建築機械設備工事及び建築電気設備工事は別紙による。

2 特記仕様

(1) 特記事の各項目は、項目番号の前に■印の付いたものを本工事に適用する。
(2) 特記事項に記載される内容が複数ある事項については、■印の付いたものを適用し、□印の付いたものは適用しない。
(3) 使用材料で複数の材料に■印が付いたものは、図面による。
(4) 特記事項に記す各種()は、標準仕様書等の各条項等を示しその適用は次のとおりとする。
1) ()は、「標準仕様書」の当該項目、当該表及び当該図を示す。
2) [改...]は、「改修標準仕様書」の当該項目、当該表及び当該図を示す。
(5) Gは、「国等による環境物品等の調達に関する法律」(以下「グリーン購入法」という。)に規定される特定調達品目を示す。
(6) 標準仕様書で特記がない場合の処置を明示している場合で、それらが関係法令等(条例を含む)に抵触する場合には、諸法令等の遵守の規程を優先する。

3 その他

(1) 表題欄に記載されている縮尺はA1版に対応するものであり、A3版の場合は読替を行うものとする。
(2) 石綿障害予防規則に基づく解体等の作業を行うときは、事前調査を行い、改修標準仕様書1.5.1(イ)により調査結果を監督職員へ提出する。調査の結果、設計図書と異なる場合は、改修標準仕様書1.5.1(ウ)による。

1章 一般共通事項

一般事項

■ 1 適用基準等

■ 建築工事標準詳細図 (国土交通省大臣官房官庁営繕部 令和4年版)

■ 建築物解体工事共通仕様書 (国土交通省大臣官房官庁営繕部 令和4年版)

■ 2 本工事における適用特記工事種別

■ 仮設工事

■ 防水改修工事

■ 外壁改修工事

□ コンクリート打放し仕上げ外壁の改修

□ モルタル塗り仕上げ外壁の改修

■ タイル張り仕上げの外壁の改修

■ 塗り仕上げ外壁等の改修

■ 建具改修工事

□ 内装改修工事

■ 塗装改修工事

■ 耐震改修工事

□ 環境配慮改修工事

■ ユニット及びその他の工事

■ 土工事

■ 地業工事

□ 屋根工事

■ 3 主任技術者等

■ 適用する

□ 適用しない

□ 4 技能士

適用工事種別

工事別	適用種別
防水改修工事	□ 防水施工 □ アスファルト防水工事作業 □ 改質アスファルトシート工法防水工事作業 □ 合成ゴム系シート防水工事作業 □ 塩化ビニル系シート防水工事作業 □ シーリング防水工事作業 □ ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 □ アクリルゴム系塗膜防水工事作業

□ 左官

□ 建築板金(内外装板金作業)

外壁改修工事	□ 左官 □ タイル張り □ 塗装(建築塗装作業) □ 樹脂接着剤注入施工
建具改修工事	□ サッシ施工 □ ガラス施工 □ 自動ドア施工
内装改修工事	□ 内装仕上げ施工 □ プラスチック系床仕上げ工事作業 □ カーベット系床仕上げ工事作業 □ 鋼製下地工事作業 □ ボード仕上げ工事作業 □ 防水施工(シーリング防水工事作業) □ 建築大工 □ 左官 □ タイル張り
塗装改修工事	□ 塗装(建築塗装作業)
耐震改修工事	□ 鉄筋施工(鉄筋組立作業) □ 型枠施工 □ とび □ コンクリート圧送施工
ブロック、ALC工事	□ ブロック建築 □ ALCパネル施工
石工事	□ 石材施工(石張り施工)

■ 5 環境への配慮

(1) グリーン購入法により、環境負荷を低減できる材料を選定するように努める。

(2) 本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次の 1) から 4) までを満たすものとする。
1) 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。
2) 接着剤は、可塑剤(フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く)が添加されていない材料を使用する。
3) 接着剤及び塗料はトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。
4) 上記1)の材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類等は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。
5) 上記 1) から 4) の「ホルムアルデヒドの放散量」は、6)の規制対象外(規制値をクリアーする規格品・認定品)を適用する。
6) 設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。
規制対象外(規制値をクリアーする規格品・認定品)
① 建築基準法施行令第20条の7第1項、第2項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料
② 建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
第三種
① 建築基準法施行令第20条の7第2項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料
② 建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料

■ 6 材料の品質等

(1) 本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能を有するものとし、JIS又はJASマークの表示がない材料は、監督職員の承諾を受ける。
(2) 製造所名及び製品名が記載された材料は、当該製品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督職員の承諾を受けるものとする。
(3) 一般社団法人公共建築協会発行「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 建築材料等評価名簿」(以下「評価名簿」という。)によると記載された材料は、評価書の写しを監督職員に提出するものとする。この場合、評価書の写しをもって、「標準仕様書」1.4.2(2)に規定する「設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料」の提出を省略することができる。
「評価名簿によると」と特記されていない場合でも優先して採用するものとする。

□ 7 特別な材料の工法

標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。

□ 8 土工事、建築機械設備工事、建築電気設備工事及び関連する機械設備工事、電気設備工事との取合い

施工範囲

□ 工事区分一覧表及び表-1工事区分表による

□ []

施工図

設備機器の位置、取合い等が検討できる施工図を提出して監督職員の承諾を受ける。

■ 9 GL等

現状GL

[TP+ 3.25 m]

設計GL

[TP+ 3.25 m]

埋め戻し後GL

[TP m]

津波等浸水深

[GL+ 1.05 m]

□ [浸水無し]

□ 10 建築基準法による条件

風速 Vo

[m毎秒]

地表面粗度区分

□ I □ II □ III □ IV

垂直積雪量

[m] 1cmごとの単位荷重 [N/㎡]

□ 11 再生資材の利用

受注者は下記の資材の使用に際し、再生資材を利用するものとする。

資材名	規格	備考

使用箇所は図示による。

■ 12 特定建設資材の分別解体等・再資源化等

■ 本工事は、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律((平成12年法律第104号)。以下「建設リサイクル法」という。))に基づき、特定建設資材の分別解体等及び再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。
なお、本工事における特定建設資材の分別解体等・再資源化等については、以下の積算条件を設定しているが、工事請負契約書「解体工事に要する費用等」に定める事項は契約締結時に発注者と受注者の間で確認されるものであるため、発注者が積算上条件明示した以下の事項と別の方法であった場合でも変更の対象としない。
ただし、工事発注後に明らかになった事情により、予定した条件により難しい場合は、監督職員と協議するものとする。

□ 本工事は、「建設リサイクル法」による規模について、「対象建設工事」に該当しないが、特定建設資材の分別解体等及び再資源化等の実施については、建設リサイクル法に準じ適正な措置を講ずることとする。

1) 分別解体等の方法

工程ごと作業内容及び解体方法	作業内容	分別解体等の方法(解体工事のみ)
① 造成等	造成等の工事 □ 有 ■ 無	□ 手作業 □ 手作業・機械作業の併用
② 基礎・基礎ぐい	基礎・基礎ぐいの工事 ■ 有 □ 無	■ 手作業 □ 手作業・機械作業の併用
③ 上部構造部分	上部構造部分・外装の工事 □ 有 ■ 無	□ 手作業 □ 手作業・機械作業の併用
④ 屋根	屋根の工事 □ 有 ■ 無	□ 手作業 □ 手作業・機械作業の併用
⑤ 建築設備	建築設備・内装等の工事 ■ 有 □ 無	■ 手作業 □ 手作業・機械作業の併用
⑥ その他	 □ 有 □ 無	□ 手作業 □ 手作業・機械作業の併用

2) 再資源化等をする施設の名称及び所在地

特定建設資材廃棄物の種類	施設名称	所在地
コンクリート		
コンクリート及び鉄からなる建設資材		

※上記 2)については積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。
なお、受注者の提示する施設と異なる場合においても設計変更の対象としない。
ただし、現場条件や数量の変更等、受注者の責によるものでない事項についてはこの限りではない。

3) その他
□ []

□ 13 一般／産業廃棄物の搬出

建設工事の施工により発生する産業廃棄物は、下記の場所に搬出することとする。

項目	施設名称	所在地
□ 石膏ボード等		
□ 仕上げ材等		
□ []		

搬出調書等 : 提出を義務付ける

□ 14 発生材の処理(引渡しを要するもの)

□ 金属類

□ []

特別管理産業廃棄物

□ PCB

□ []

□ 15 室内空気中の化学物質の濃度測定

施工完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンの濃度を測定し、厚生労働省の定める指針値以下であることを確認し、報告すること。
なお、測定は発注者が発注する別途工事又は家具の設置等が行われる前に行う。

測定機器 : パッシブ型採取機器(アクティブ型採集機器も使用可能とする。)

測定対象化学物質の管理値

測定対象化学物質	厚生労働省の指針値(25℃の場合)	備考
□ ホルムアルデヒド	0.08 ppm (100 μg/m3)	
□ トルエン	0.07 ppm (260 μg/m3)	
□ キシレン	0.05 ppm (200 μg/m3)	
□ エチルベンゼン	0.88 ppm (3,800 μg/m3)	
□ スチレン	0.05 ppm (220 μg/m3)	

測定対象室及び個所数

測定対象室	測定個所数	測定対象室	測定個所数	測定対象室	測定箇所数
□ 事務室		□ 研究室		□	
□ 会議室		□ 書庫・倉庫など常時換気しない部屋		□	
□ 宿直室				□	
□ 休憩室		□		□	
□ 水質試験室		□		□	

■ 16 完成写真

下記のことを監督職員に提出する。

分類規格	撮影箇所数	部数
■ CD-ROM	外部(8) 内部() 3000ドット/セル×3600ドット/セル程度 JPEG形式で保存	■ 2 □ []

撮影業者 □ 監督職員の承諾する撮影業者 □ []

■ 17 工事完成図等

■ 製作する □ 製作しない

■ 18 施工条件明示

■ 執務並行改修 □ 全館無人改修

□ 施工時期 []

□ 施工時間 []

□ 施工方法 []

□ 交通誘導員

配置要員 [] 人 配置期間 [] 日

□ 隣接工事又は関連工事の概要

工事名	工期(予定)	工事概要	備考
□ 建設工事その	RO.○～RO.○		
□ ポンプ設備工事その			
□ 電気設備工事その			
□			

■ 19 発注図データの貸与

■ 貸与あり □ 貸与なし

(1) 完成図書作成等の利用に供するため、発注図面のCADデータを受注者に貸与する。
(2) 提供するCADデータは、本工事の施工以外の目的に使用してはならない。
(3) 図面とCADデータの内容に相違がある場合、図面の内容が優先する。

令和 7 年度

工事名

小山ポンプ場耐水化工事

工事場所

松戸市小山180番地

図面種別

建築改修工事特記仕様書(1)

縮尺

—

図面番号

全 22 葉ノ内 A-01 号

松戸市建設部下水道維持課

- 20 週休2日制適用工事（受注者希望方式）
- (1) 本工事は、監督職員と受注者双方が工程調整を行うことにより、週休2日を達成するよう工事を実施する「週休2日制適用工事（受注者希望方式）」の試行を行うこととする。受注者は、週休2日を希望する場合は、工事着手前に、発注者に対して週休2日に取組む旨を協議するものとする。週休2日を希望しない場合は、工事着手前に、発注者に対して週休2日に取組まない旨を通知するものとする。なお、週休2日を希望しない場合、(3)から(5)までに規定する項目は対象外とする。
- (2) 週休2日の考え方は以下のとおりである。
- 1) 週休2日
対象期間において、4週8休以上の現場閉所を行ったと認められる状態をいう。
- 2) 対象期間
工事着手日（現場に継続的に常駐した最初の日）から工事完成日までの期間をいう。
なお、年末年始6日間、夏季休暇8日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間のほか、発注者があらかじめ対象外としている内容に該当する期間（受注者の責によらず現場作業を余儀なくされる期間など）は含まない。
- 3) 現場閉所
巡回パトロールや保守点検等、現場管理上必要な作業を行う場合を除き、現場事務所での事務作業を含めて1日を通して現場や現場事務所が閉所された状態をいう。
工事現場が隣接又は同一場所において別途工事がある場合に、各発注工事単位で、現場事務所での作業を含めて1日を通して現場作業が無い状態を含む。
- 4) 4週8休以上
対象期間内の現場閉所日数の割合（以下、「現場閉所率」という。）が、28.5%（8日/28日）以上の水準に達する状態をいう。なお、現場閉所率の算定においては、降雨、降雪等による予定外の現場閉所日についても、現場閉所日数に含めるものとする。
なお、現場閉所日は、隣接工事又は関連工事の受注者と協力し、工事の進捗に影響が出ないよう調整を行うこと。
- (3) 受注者は、工事着手前に、「週休2日制適用工事実施同意（不同意）届出書」および週休2日の取得計画が確認できる「現場閉所予定日」を記載した「月間工程表」等を作成し、監督職員の確認を得た上で、週休2日に取り組むものとする。工事着手後に、工程計画の見直し等が生じた場合には、その都度「月間工程表」等を提出するものとする。
監督職員が現場閉所の状況を確認するために「工事予定・履行報告書」等に「現場閉所日」を記載し、監督職員に提出するものとする。監督職員は、受注者が作成する「現場閉所日」が記載された「工事予定・履行報告書」により、対象期間内の現場閉所日数を確認する。
また、受注者は、週休2日の取得結果が確認できる「現場閉所報告書」を提出する。
- (4) 現場閉所を行うときは、監督職員へ事前に連絡すること。ただし、以下に該当する場合は、連絡は不要である。
- ① 工程会議等により監督職員が事前に把握している場合
② 官公庁の休日の場合
- (5) 受注者は、施設管理者の承諾を前提に週休2日制適用工事を旨を明示（工事看板等）する。
- (6) アンケート調査を実施する場合はこれに協力すること。
- (7) 週休2日を確保できなかった場合の工事成績の減点は行わない。
- (8) 週休2日掛に掛かる費用については、当初予定価格から4週8休以上の達成を前提とした補正係数を労務費に乗じているが、現場閉所の達成状況を確認後、4週8休に満たないものは、現場閉所の達成状況に応じて労務費の補正係数を変更し、請負代金額を変更するものとする。また、4週6休に満たないもの及び、工事着手前に週休2日に取り組むことについて協議が整わなかったもの（受注者が週休2日の取組を希望しないものを含む）については、補正係数を除いた変更を行うものとする。また、4週6休に満たないもの及び、工事着手前に週休2日に取り組むことについて協議が整わなかったもの（受注者が週休2日の取組を希望しないものを含む）については、契約締結後における直近の変更契約時に合わせて補正係数を除いた変更を行うものとする。
- 21 余裕期間
- 発注者指定方式
本工事は余裕期間を設定した工事であり、契約締結後、余裕期間内は、工事に着手してはならない。また、工事着手前に資材の搬入、仮設物の設置等を行ってはならない。
なお、余裕期間における監理技術者等の配置は不要とする。
余裕期間内に準備が整った場合は、主任監督員と協議の上、工事に着手できるが、実工期についての契約変更を要する。
- 実 工 期：〔令和 年 月 月 ～ 令和 年 月 日〕
（余裕期間 契約締結の翌日から 令和 年 月 日 まで）
- 任意着手方式
本工事は余裕期間を設定した工事であり、契約締結後、工事着手期限までの間で、受注者は工事の始期を任意に設定することができる。なお、受注者は、契約締結するまでの間に、工期通知書（様式-〇）により、工事の始期を通知すること。また、工事着手前に資材の搬入、仮設物の設置等を行ってはならない。なお、余裕期間における監理技術者等の配置は不要とする。契約締結後において、工事の始期の変更の必要が生じた場合は、主任監督員と協議の上、工期に係る契約を変更することにより、工事に着手することができるものとする。
- 実 工 期：〔工事の始期から 日間〕
（ただし、令和 年 月 日（工事着手期限）までに工事を開始すること）

■ 2章 仮設工事

- [illegible]

種別	下地	仕上材(厚さ mm)	充てん材(厚さ mm)	塗装
☐ A種	☐ 軽量鉄骨	☐ 合板	グラスウール 2号32k	☐ 無し
☐ B種	☐ 木下地	☐ 9.0 □ [] ☐ せっこうボード □ 9.5 □ []	☐ 25 □ []	☐ 片面
☐ C種	☐ 単管下地	☐ 防炎シート		
☐ 仮設扉	☐ 木製扉	☐ 合板張り程度 □ []	☐ 無し ☐ 有り	☐ 無し ☐ 有り
	☐ 鋼製扉	☐ 片面フランク程度 □	グラスウール 2号32k □ 25 □ []	

- 4 工事用水
工事現場内既存の施設
□ 利用できない
■ 利用できる
□ 有償 ■ 無償
- 5 工事用電力
工事現場内既存の施設
□ 利用できない
■ 利用できる
□ 有償 ■ 無償

- 6 手すり先行足場
足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」について(厚生労働省発第0424001号平成21年4月24日)の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中横及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の(2)の手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。

■ 3章 防水改修工事

共通事項

- 1 施工数量調査 [改1.6.3]
 調査範囲 □ 図示 □ []
 調査方法 □ 図示 □ []
 既存部分の破壊を行った場合の補修方法 □ 図示 □ []
 調査報告書の部数 □ 2部 □ []

持記事項

- ☐ 1 降雨等による養生方法 [改3.1.3(5)]
☐ [改3.1.3(5)]による ☐ 図示

- 2 既存下地の処理 [改3.2.6]

既存防水層撤去後のコンクリート、モルタル面の処理

□ 図示 □ 別途(施工数量調査による)

既存防水層の処理

□ 図示 □ 別途(施工数量調査による)

既存保護層の処理

□ 図示 □ 別途(施工数量調査による)

入隅及び出隅等の処理

□ 図示 □ 別途(施工数量調査による)

設備機器架台、配管受部、バラベツト、貫通、パイプ回り、手すり、丸環の取付け部、

塔屋出入口部等の欠損部及び防水層末端部の納まり部の処理

□ 図示 □ 別途(施工数量調査による)

- ☐ 3 アスファルト防水 [改3.1.4][改3.2.2～6][改3.3.2～5][改表3.1.1][改表3.3.3～表3.3.10]

	防水改修工法の種類	施工箇所	新規防水層の種類	
保護防水	☐ P1B工法		☐ B-1	☐ B-2
	☐ P1BI工法		☐ BI-1	☐ BI-2
	☐ P2AI工法		☐ AI-1	☐ AI-2
	☐ P2A工法		☐ AI-3	
露出防水	☐ M4C工法		☐ A-1 ☐ A-3	☐ A-2
	☐ M3D工法		☐ C-1 ☐ C-3	☐ C-2 ☐ C-4
	☐ P0D工法		☐ D-1	☐ D-2
	☐ P0DI工法		☐ D-1	☐ D-2
	☐ M3DI工法		☐ DI-1 G	☐ DI-2 G
	☐ M4DI工法		☐ DI-1 G	☐ DI-2 G
屋内防水	☐ P1E工法		☐ E-1 保護層	☐ E-2 ☐ 図示による
	☐ P2E工法		☐ E-1 保護層	☐ E-2 ☐ 図示による

- アスファルトの種類 [改3.2.2(ア)][改3.3.2(2)]
- ☐ 3種

- | | | | |
|---------------------------------------|--|----------------------------|----------------|
| 改質アスファルトルーフィングシート（P2AI工法・P2A工法・M4C工法） | | | [改3.3.2(3)(カ)] |
| 種類 | ☐ [改3.3.2(3)(カ)]による | ☐ [|] |
| 厚さ(mm) | ☐ 1.5以上 | ☐ [|] |

- 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート [改3.3.2(3)(キ)]
(P1B工法・P1BI工法・M3DI工法・POD工法・PODI工法・M3DI工法・M4DI工法)
- | | | |
|--------|--|------------------------------|
| 種類 | ☐ [改3.3.2(3)(キ)]による | ☐ [] |
| 厚さ(mm) | ☐ 1.5以上 | ☐ [] |

- 防水の押え金物の材質及び形状寸法 [改3.3.2(6)]
- ☐ [改3.3.2(6)]による ☐ 図示による

- 屋根保護防水断熱工法の断熱材（P1BI工法・P2AI工法） [改3.3.2(8)]
- | | | |
|--------|---|---|
| 材質 | ☐ [改3.3.2(8)]による | ☐ [] |
| 厚さ(mm) | ☐ 25 ☐ 50 | ☐ [] |

- 屋根露出防水断熱工法の断熱材（PODI工法・M3DI工法・M4DI工法） [改3.3.2(9)]
- | | | | |
|--------|---|----------------------------|---|
| 材質 | ☐ [改3.3.2(9)]による | ☐ [|] |
| 厚さ(mm) | ☐ 25 ☐ 50 | ☐ [|] |

- 屋根保護防水工法の絶縁用シート (P1B工法・P2A工法) [改3.3.2(10)]
- ☐ [改3.3.2(10)]による ☐ []

- 屋根保護防水断熱工法の絶縁用シート（P1BI工法・P2AI工法） [改3.3.2(10)]
- ☐ [改3.3.2(10)]による ☐ []

- 成形伸縮目地材 [改3.3.2(11)][改表3.3.1]
- ☐ アンカータイプ ☐ 付着層タイプ

- 平場の保護コンクリートの厚さ(mm) [改3.3.5(4)]
- ☐ 図示による ☐ [改3.3.5(4)]による

- 立上り部の保護 [改3.3.5(5)]
☐ 図示による

- | | |
|--|--|
| 立上り部への断熱材及び絶縁シート
(AI-1,AI-2,AI-3,BI-1,BI-2) | [改3.3.3][表3.3.4][表3.3.5] |
| ☐ 図示による | |
| 脱気装置
(M3D工法・POD工法・PODI工法・M3DI工法・M4DI工法) | [改3.3.3(2)(イ)][改3.3.3(3)] |
| ☐ 設ける | |
| 種 類 | ☐ 製造所の仕様による ☐ [] |
| 設置数量 | ☐ 製造所の仕様による ☐ [箇所／ m2] |
| ☐ 設けない | |
| 仕上塗料の種類及び使用量 | [改3.3.3(2)][改3.3.3(3)] |
| ☐ 製造所の仕様による | ☐ [kg／m2] |
| 二重ドレン（POD工法・PODI工法） | [改3.2.5] |
| ☐ 設ける （排水許容面積を計算し、監督職員に提出する） | |
| ☐ 設けない | |
| 既存露出防水層表面の仕上げ塗装の除去（M4C工法・M4DI工法） | [改3.2.6(3)(イ)] |
| ☐ 行わない ☐ 行う | |
| 施工標識 | |
| ☐ 設ける | |

- ☐ 4 改質アスファルトシート防水 [改3.4.2～4][改表3.1.1][改表3.4.1～3]

防水改修工法の種類	施工場所	新規防水層の種類	
☐ M4AS工法		☐ AS-T1	☐ AS-T2
☐ M3AS工法		☐ AS-J2	
☐ P0AS工法		☐ AS-T3	☐ AS-T4
		☐ AS-J1	☐ AS-J3
☐ M3ASI工法		☐ AS-T3	☐ AS-T4
☐ M4ASI工法		☐ AS-J1	☐ AS-J3
☐ P0ASI工法		☐ ASI-T1	☐ ASI-J1
		☐ ASI-T1	☐ ASI-J1
		☐ ASI-T1	☐ ASI-J1

- 改質アスファルトシート [改3.4.2(1)]
- | | | |
|--------|--|------------------------------|
| 種類 | ☐ [改表3.4.1～表3.4.3]による | ☐ [] |
| 厚さ(mm) | ☐ [改表3.4.1～表3.4.6]による | ☐ [] |

- 粘着層付改質アスファルトシート [改3.4.2(1)]
 種類 ☐ [改表3.4.1～表3.4.3]による ☐ []
 厚さ(mm) ☐ [改表3.4.1～表3.4.3]による ☐ []

- 部分粘着層付改質アスファルトシート [改3.4.2(1)]
- | | | |
|--------|--|------------------------------|
| 種類 | ☐ [改表3.4.1～表3.4.3]による | ☐ [] |
| 厚さ(mm) | ☐ [改表3.4.1～表3.4.3]による | ☐ [] |

- 屋根露出防水断熱工法の断熱材 (M3ASI工法・M4ASI工法・P0ASI工法) [改3.4.2(3)ウ]
- | | | |
|--------|---|------------------------------|
| 材質 | ☐ [改3.4.2(3)ウ] | ☐ [] |
| 厚さ(mm) | ☐ 25 ☐ 50 | ☐ [] |

- 二重ドレン（POAS工法・POASI工法） [改3.2.5]
- ☐ 設ける （排水許容面積を計算し、監督職員に提出する）
- ☐ 設けない

- 既存露出防水層表面の仕上り塗装の除去（M4AS工法・M4ASI工法） [改3.2.6(3)(イ)]
- ☐ 行わない ☐ 行う

- 脱気装置 [改3.4.3(イ)][改3.4.3(ウ)]
- (M3AS工法・POAS工法・M3ASI工法・M4ASI工法・POASI工法)
- ☐ 設ける ☐ 種類 ☐ 製造所の仕様による ☐ []
- ☐ 設置数量 ☐ 製造所の仕様による ☐ [箇所／ m²]
- ☐ 設けない

- 仕上塗料の種類及び使用量 [改3.4.3]
☐ 製造所の仕様による ☐ [kg/m²]

- 施工標準 ☐ 設ける

令和 7 年度	
工 事 名	小山ポンプ場耐水化工事
工事場所	松戸市小山180番地
図面種別	建築改修工事特記仕様書(2)
縮 尺	—
図面番号	全 22 葉ノ内 A-02 号
松戸市建設部下水道維持課	

□ 5 合成高分子系ルーフィングシート防水 [改3.5.2～4][改表3.1.1][改表3.5.1～改表3.5.6]					■ 7 シーリング [改3.7.2～7][改表3.1.2]					■ 4章 外壁改修工事				
防水改修工法の種類 施工箇所 新規防水層の種類 仕上塗料 使用分類					シーリング材の種類は、下記以外[改表3.7.1]による					共通事項				
□ POS工法		□ SーF1 □ SーF2 □ SーM1 □ SーM2	□ カラー □ シルバー	□ 非歩行 □ 軽歩行	シーリング改修工法の種類 施工箇所 シーリング材の種類（記号） シーリング材表面に仕上塗材、塗装等	■ シーリング充填工法 図示による 図示による □ 仕上げあり	□ シーリング再充填工法 □ 仕上げあり	□ 拡幅シーリング再充填工法 □ 仕上げあり	□ ブリッジ工法 □ 仕上げあり	調査数量調査 調査範囲 □ 外壁部全面 □ 外壁改修範囲 □ 図示の範囲 [改1.6.3] 調査内容 ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。 モルタル塗仕上げ及びタイル張り仕上げについては、浮き部分を表面に表示し、また、欠損部の形状寸法等を調査する。 コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。 塗り仕上げについては、コンクリート又はモルタル表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。 また、既存塗膜と新規上塗材との適合性を確認する。 調査報告書の部数 □ 2部 □ []	a. 外観は、均質で有害と認められる異物の混入がないこと b. タイル、石材、下地等を侵すものでないこと c. 「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」に基づく 特定化学物質及び「労働安全衛生法」に基づく 「有機溶剤中毒予防規則」に規定された第一種有機溶剤を使用しないこと d. ずれが生じないこと e. 混練終結時の確認が容易なように色が明瞭であること	□ 既製調合モルタル（タイル張付け用材料）	保水率（％） 単位容積質量（kg／l） 接着強度（N／mm2） 長さ変化率（％） 曲げ強度（N／mm2） 70.0以上 1.80程度 0.60以上 0.40以上 0.20以下 4.0以上	
□ POSI工法		□ SIーF1 □ SIーF2 □ SIーM1 □ SIーM2	□ カラー □ シルバー	□ 非歩行 □ 軽歩行	ポンドプレーカー張り及びエッジング材張り（ブリッジ工法） [改3.7.7(2)] □ 適用する □ 適用しない 目地寸法 ■ 図示による □ [改3.7.3(1)]による [改3.7.3(1)] シーリング材の接着性試験 [改3.7.8(2)] □ 行う □ 簡易接着性試験 □ 引張接着性試験 □ 行わない	■ 8 とい ■ たてどい（雨水用） 材 種 [改3.8.2(1)][改表3.8.1] ■ 硬質ポリ塩化ビニル管 □ 既製たてどい（市販品） □ アルミニウム製〔厚 mm〕 □ ステンレス製〔厚 mm〕 製造所名、製品名及び製品番号〔 〕。 当該製品又は同等品以上とする。 防露巻き [改3.8.3(3)][改表3.8.4] □ [改表3.8.4]による □ 行わない 防露材のホルムアルデヒド放散量 □ 規制対象外 □ 第三種 床下掃除口 □ 図示による	□ [改表3.8.4]による □ 行わない 防露材のホルムアルデヒド放散量 □ 規制対象外 □ 第三種 床下掃除口 □ 図示による	□ 軒どい（屋内床排水用） 材 種 [改3.8.2(1)][改表3.8.1] □ 配管用炭素銅鋼管（白管） □ ステンレス鋼管 厚さ〔 mm〕 □ 硬質ポリ塩化ビニル管 □ RF-VP G □ [] 防露巻き [改3.8.4]による □ 行わない 防露材のホルムアルデヒド放散量 □ 規制対象外 □ 第三種 床下掃除口 □ 図示による	□ ポリマーセメントモルタル ポリマーセメントモルタルの種類 合成高分子エマルジョン（合成ゴム系、アクリル系、エチレンー酢ビ系等） 曲げ強さ 圧縮強さ 接着強さ 標準時 湿潤時 低温時 6.0N/mm2以上 20.0N/mm2以上 1.0N/mm2以上 0.8N/mm2以上 0.5N/mm2以上 表面状態 だれの下がり量は5mm以内とし、ひび割れが発生していないこと 透水性 裏面の漏れ、水滴の付着がないこと 均質で有害と認められる異物の混入がないこと □ パテ状エポキシ樹脂 初期硬化性 接着強さ 圧縮強さ 曲げ強さ 硬化収縮率 （標準）（標準） 2.0N/mm2以上 6.0N/mm2以上 50.0N/mm2以上 30.0N/mm2以上 3.0%以下 a. 均質で有害と認められる異物の混入がないこと b. 対象とする被着体を侵さず、かつ、周囲を汚損しないこと c. 常温常湿（温度20±15℃、湿度65±20％）において、製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月間保存した後であっても、上記の品質・性能の各項目に適合していること □ エポキシ樹脂モルタル 接着強さ 圧縮強さ 曲げ強さ 1.0N/mm2以上 20.0N/mm2以上 10.0N/mm2以上 a. こて塗りが容易で、かつ、硬化後の仕上がりが良好であること b. 均質で有害と認められる異物の混入がないこと c. 「労働安全衛生法」に基づく「有機溶剤中毒予防規則」に規定された第一種有機溶剤を使用しないこと d. 形状に異常がなく、だれが生じないこと e. 常温常湿（温度20±15℃、湿度65±20％）において、製造後6ヶ月間保存した後であっても、上記の品質・性能の各項目に適合していること □ ポリマーセメントスラリー 広がり速度 長さ変化率（収縮） 引張接着性（材令28日） 曲げ強度（材令28日） 吸水率（72時間） 耐久性（劣化曲げ強さ） 3cm/s以上 3%以下 0.5N/mm2以上 5.0N/mm2以上 15%以下 5.0N/mm2以上 保水係数 0.35～0.55 粘調係数 0.50～1.00 □ 吸水調整材 項目 全固分 吸水性 接着強さ 界面破断率 品質・性能 表示値±1.0%以内 30分間で1g以下 0.98N/mm2以上 50%以下 均質で有害と認められる異物の混入がないこと □ タイル部分張替え用エポキシ樹脂 接着強さ 標準 低温硬化 アルカリ温水 冷熱水中繰返し 熱劣化 強度 0.6N/mm2以上 0.4N/mm2以上 0.4N/mm2以上 0.4N/mm2以上 0.4N/mm2以上 凝集破壊率 75%以上 50%以上 50%以上 50%以上 50%以上 皮膚毒性 標準 高温 低温 アルカリ温水 熱劣化 引張強さ 0.6N/mm2以上 0.6N/mm2以上 0.6N/mm2以上 0.4N/mm2以上 0.4N/mm2以上 伸び 35%以上 35%以上 35%以上 25%以上 25%以上 貯蔵安定性 容積と粘度に著しい変化のないこと 耐熱性 JIS A 5557により、80℃で4週間、9.8Nのおもりで安定していること	□ 2 モルタル塗り仕上げ及びタイル張り仕上げの施工後の確認及び試験は、[改4.4.8(6)]による。 □ 3 改修材料 [改4.2.4] □ 可とう性エポキシ樹脂	性能 常温物性 低温性 加熱劣化 引張接着性（常温物性） 引張強さ 1.0N/mm2以上 1.0N/mm2以上 1.0N/mm2以上 最大引張応力 1.0N/mm2以上 伸び 30%以上 30%以上 30%以上 破断時の伸び 10%以上 比重 表示値±0.10 押出し性 60秒以下 スランプ 3mm以下 加熱減量 5%以下 a. 均質で有害と認められる異物の混入がないこと b. 対象とする被着体を侵さず、かつ、周囲を汚損しないこと c. 常温常湿（温度20±15℃、湿度65±20％）において、製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月間保存した後であっても、上記の品質・性能の各項目に適合していること □ ポリマーセメントモルタル ポリマーセメントモルタルの種類 合成高分子エマルジョン（合成ゴム系、アクリル系、エチレンー酢ビ系等） 曲げ強さ 圧縮強さ 接着強さ 標準時 湿潤時 低温時 6.0N/mm2以上 20.0N/mm2以上 1.0N/mm2以上 0.8N/mm2以上 0.5N/mm2以上 表面状態 だれの下がり量は5mm以内とし、ひび割れが発生していないこと 透水性 裏面の漏れ、水滴の付着がないこと 均質で有害と認められる異物の混入がないこと □ パテ状エポキシ樹脂 初期硬化性 接着強さ 圧縮強さ 曲げ強さ 硬化収縮率 （標準）（標準） 2.0N/mm2以上 6.0N/mm2以上 50.0N/mm2以上 30.0N/mm2以上 3.0%以下 a. 均質で有害と認められる異物の混入がないこと b. 対象とする被着体を侵さず、かつ、周囲を汚損しないこと c. 常温常湿（温度20±15℃、湿度65±20％）において、製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月間保存した後であっても、上記の品質・性能の各項目に適合していること □ エポキシ樹脂モルタル 接着強さ 圧縮強さ 曲げ強さ 1.0N/mm2以上 20.0N/mm2以上 10.0N/mm2以上 a. こて塗りが容易で、かつ、硬化後の仕上がりが良好であること b. 均質で有害と認められる異物の混入がないこと c. 「労働安全衛生法」に基づく「有機溶剤中毒予防規則」に			

[illegible]

■ 5章 建具改修工事

特記事項

■ 1 改修工法

[改5.1.3]

建具の種類	かぶせ工法	撤去工法	備 考
■ アルミニウム製建具	☐	■	
☐ 鋼製建具	☐ 外部	☐	
	☐ 内部	☐	
☐ 鋼製軽量建具	☐	☐	
☐ ステンレス製建具	☐	☐	
☐ 防水型建具	－	☐	
☐ []	☐	☐	

新規に金属製建具を設置する場合の開口の開け方、補修工法及び範囲

[改5.1.3(2)]

☐ 図示

開口をあける既存躯体の埋込み配管等の探査

☐ 探査器により探査し、配管等の位置の墨出しを行う

☐ はつり出し

☐ 2 防火設備、特定防火設備等の建具

[改5.1.4]

☐ 図示による

☐ 3 見本の製作等

[改5.1.5]

☐ 建具見本の製作 建具番号[適用箇所は図示による]

☐ 特殊な建具の仮組 建具番号[適用箇所は図示による]

☐ 4 アルミニウム製建具

[改5.2.2][改表5.2.1]

外部に面する建具

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み(mm)	施工箇所
☐ A種	S－4 (2,000Pa)	☐ A－3 (A-3等級線)	☐ W－4 (350Pa)	☐ 70	☐ 図示による
☐ B種	S－5 (2,400Pa)	☐ A－4 (A-4等級線)	☐ W－5 (500Pa)	☐ 100	
☐ C種	S－6 (2,800Pa)	A－4 (A-4等級線)	W－5 (500Pa)	☐ 100	☐ []

外部に面する建具の表面処理

[改5.2.4][改表5.2.2]

種別	仕様	施工箇所
☐ BB－1種 (一般的な環境の屋外)		☐ 図示による
☐ BB－2種 (一般的な環境の屋外)	着色方法 ☐ 二次電解着色 ☐ [] 色合い ☐ ブラック ☐ ステンカラー ☐ [] ☐ ブラウン系 ☐ []	☐ 図示による
☐ BA－1種 (過酷な環境の屋外)		☐ 図示による
☐ BA－2種 (過酷な環境の屋外)	着色方法 ☐ 二次電解着色 ☐ [] 色合い ☐ ブラック ☐ ステンカラー ☐ [] ☐ ブラウン系 ☐ []	☐ 図示による

屋内の建具の表面処理

[改5.2.4][改表5.2.2]

種別	仕様	施工箇所
☐ BC－1種 (屋内)		☐ 図示による
☐ BC－2種 (屋内)	着色方法 ☐ 二次電解着色 ☐ [] 色合い ☐ ブラック ☐ ステンカラー ☐ [] ☐ ブラウン系 ☐ []	☐ 図示による

☐ アルミニウム製防音サッシの適用

[改5.2.2(2)]

☐ 適用箇所は図示による

遮音性能 ☐ T－1 ☐ T－2 ☐ T－3 ☐ T－4

☐ アルミニウム製断熱サッシの適用 **G**

[改5.2.2(2)]

☐ 適用箇所は図示による

断熱性能 ☐ H－1 ☐ H－2 ☐ H－3 ☐ H－4 ☐ H－5

☐ 5 網 戸

[改5.2.3(5)]

形式	構造	網の種類	網目	線径
☐ 外面可動式	☐ 純正	☐ ガラス繊維入り合成樹脂製	☐ 16～18メッシュ	☐ 0.25mm以上
☐ 固定式	☐ フリーサイズ	☐ 合成樹脂製	☐ []	☐ []
		☐ ステンレス製(SUS316)		

☐ 6 鋼製建具

[改5.4.2][改表5.2.1]

☐ 外部建具の耐風圧性(大型建具を除く)

☐ S－4 ☐ S－5 ☐ S－6

☐ 外部建具の耐風圧性(大型建具)

☐ 図示による ☐ 1,200Pa ☐ []

☐ 簡易気密型ドアセットの性能等級

[改5.4.2(2)][改表5.4.1]

☐ 気密性A-3、水密性W-1

☐ []

☐ 気密型建具の性能等級

☐ 気密性A-4 ☐ []

☐ 鋼製建具の防音ドアセットの適用(大型建具を除く)

[改5.4.2(2)]

☐ 適用箇所は図示による

遮音性能 ☐ T－1 ☐ T－2 ☐ T－3 ☐ T－4

☐ 鋼製建具の断熱ドアセットの適用(大型建具を除く **G**)

[改5.4.2(2)]

☐ 適用箇所は図示による

断熱性能 ☐ H－1 ☐ H－2 ☐ H－3 ☐ H－4 ☐ H－5

☐ 鋼製建具の耐震ドアセットの適用(大型建具を除く)

[改5.4.2(2)]

☐ 適用箇所は図示による

面内変形追従性能 ☐ D－1 ☐ D－2 ☐ D－3

☐ 標準型鋼製建具の適用は図示による

☐ 7 鋼製軽量建具

[改5.5.2(2)]

☐ 簡易気密扉の簡易気密型ドアセット性能値

☐ 適用する (☐ A-3 ☐ []) ☐ 適用しない

☐ 鋼製軽量建具の防音ドアセットの適用

[改5.5.2(2)]

☐ 適用箇所は図示による

遮音性能 ☐ T－1 ☐ T－2 ☐ T－3 ☐ T－4

☐ 鋼製軽量建具の断熱ドアセットの適用 **G**

[改5.5.2(2)]

☐ 適用箇所は図示による

断熱性能 ☐ H－1 ☐ H－2 ☐ H－3 ☐ H－4 ☐ H－5

☐ 鋼製軽量建具の耐震ドアセットの適用

[改5.5.2(2)]

☐ 適用箇所は図示による

面内変形追従性能 ☐ D－1 ☐ D－2 ☐ D－3

☐ 標準型鋼製軽量建具の適用は図示による

☐ 8 ステンレス製建具

[改5.6.4(4)]

表面仕上げ

☐ 図示による ☐ []

曲げ加工

[改5.6.5(1)]

☐ 普通曲げ ☐ []

補強材

[改5.6.4(5)]

☐ [改5.6.4(5)]による ☐ ステンレス製

外部建具の耐風圧性(大型建具を除く)

[改5.6.2]

☐ S－4 ☐ S－5 ☐ S－6

簡易気密扉の簡易気密型ドアセット性能値(大型建具を除く)

[改5.6.2]

☐ 適用する(気密性A-3、水密性W-1) ☐ 適用しない

外部に面する大型建具の耐風圧性

☐ 図示による ☐ 1,200Pa ☐ []

☐ ステンレス製建具の防音ドアセットの適用(大型建具を除く)

[改5.6.2]

☐ 適用箇所は図示による

遮音性能 ☐ T－1 ☐ T－2 ☐ T－3 ☐ T－4

☐ ステンレス製建具の断熱ドアセットの適用(大型建具を除く) **G**

[改5.6.2]

☐ 適用箇所は図示による

断熱性能 ☐ H－1 ☐ H－2 ☐ H－3 ☐ H－4 ☐ H－5

☐ ステンレス製建具の耐震ドアセットの適用(大型建具を除く)

[改5.6.2]

☐ 適用箇所は図示による

面内変形追従性能 ☐ D－1 ☐ D－2 ☐ D－3

■ 9 防水型建具

[改5.6.2]

☐ 津波用ドア 建具用浸水深 []m

漏水量による等級(JIS A 4716による) ☐ Ws-3以上 ☐ []

水深係数 ☐ 1.5 ☐ 2.0 ☐ 3.0

■ 浸水防止用ドア 設定浸水深 [GL+1.05] m

漏水量による等級(JIS A 4716による) ■ Ws-3以上 ☐ []

☐ 塩害対策

[改5.6.2]

枠、扉の材料

☐ 三方枠 ☐ SUS304(厚さは建具製作所の仕様)

☐ 鋼板(厚さはD-21による) ☐ []

☐ SUS304(厚さは建具製作所の仕様)

☐ 鋼板(厚さはD-21による) ☐ []

☐ SUS304(厚さは建具製作所の仕様)

☐ 鋼板(厚さはD-21による) ☐ []

枠、力骨・中骨

☐ SUS304 No.2B (JIS G 4305) ☐ []

■ 垂鉛メッキ銅面 耐候性塗料塗り(DP) ☐ []

枠、扉の表面仕上げ

☐ SUS304 No.2B (JIS G 4305) ☐ []

■ 垂鉛メッキ銅面 耐候性塗料塗り(DP) ☐ []

☐ 10 木製建具

[改5.7.2]

かまち戸の樹種

[改5.7.2(3)]

かまち [] 鏡板 []

ふすまの上張り

[改5.7.2(4)]

☐ 新鳥の子程度又はビニル紙 ☐ 鳥の子

☐ 11 建具用金物

[改5.8.2(1)][改表5.8.1]

金物の種類

金物の仕様

大型丁番

SUS製又は黄銅製

KKシブタニ(DH-340S) 中西産業KK(5K-5600)

GK堀商店(2841) 程度とする

内蔵型上げ落し

(カセットケース式内蔵型グレモン締り)

ハンドル ☐ ステンレス製 ☐ []

☐ ローラーなしハンドル ☐ ローラー付きハンドル

KKシブタニ(C-55Gシリーズ) 中西産業KK(GMS-1310Cシリーズ) 程度とする

大型上げ落し

(大型面付け上部締り)

KKシブタニ(DL-2000) 中西産業KK(5K-5600)

GK堀商店(2821) 程度とする

大型扉用戸当りあり止め

床付け GK堀商店(2113) 中西産業KK(DC-X-19)

KKシブタニ(DC-91) 程度

壁付け GK堀商店(2103) 中西産業KK(DC-X-20) 程度

両面締りハンドル

(ローラー付きグレモンハンドル)

ハンドル ☐ ステンレス製 ☐ []

KKシブタニ(H72SX+JSDL55) 中西産業KK(SUS-X-191-RO)

GK堀商店(2644W) 程度とする

片面締りハンドル

(ローラー付きグレモンハンドル、ロック付き)

ハンドル ☐ ステンレス製 ☐ []

KKシブタニ(H170S) 中西産業KK(SUS-FX-191-SR)

GK堀商店(2644F) 程度とする

面付3点両面締りハンドル

ハンドル ☐ 黄銅製 ☐ []

KKシブタニ(DL-4000T-3D) GK堀商店(2651-TG-3W)

中西産業KK(SF-3) 程度とする

面付2点片面締りハンドル

(両開き扉用)

ハンドル ☐ 黄銅製 ☐ []

KKシブタニ(DL-4000T-2S) GK堀商店(2651-TG-2F)

中西産業KK(SF-2) 程度とする

上記以外の金物は改修標準仕様書による。

握り玉、レバーハンドル等の取付け位置

[改5.8.3(1)]

☐ 図示による

■ ドアクローザ

[改表5.8.1]

☐ 設ける

☐ ディレードアクション(遅延閉)機能付き ☐ []

☐ 設けない

☐ マスターキー(施工中はコンストラクションキースystemを適用する)

[改5.8.4(1)]

☐ 製作する [発注者と協議の上システムを決定する] ☐ 製作しない

☐ 大型建具の金物

☐ 上下の大型上げ落し又は内蔵型上げ落しを設置する。(二枚扉の場合は、両方とも設置)

☐ 12 自動ドア開閉機構

[改5.9.3(1)][改5.9.3(2)][改表5.9.4]

開閉方法

センサーの種類

☐ スライディングドア ☐ 熱線センサー

☐ スイングドア ☐ 電波センサー

☐ タッチスイッチ ☐ 押しボタンスイッチ

☐ 光線(反射)センサー ☐ 車椅子使用者用便房スイッチ

☐ 音波センサー ☐ []

☐ 寒冷地の凍結防止装置 建具番号[適用箇所は図示による]

[改5.9.3(7)]

☐ 13 自閉式上吊り引戸装置(車椅子使用者用便房等)

[改5.10.3(2)]

自閉式上吊り引戸装置の性能

☐ [改表5.10.1]による ☐ 製造所の標準仕様による

☐ 14 重量シャッター

[改5.11.2(2)]

耐風圧性能(N/㎡)

☐ 1200 ☐ 図示による

開閉方式

[改5.11.2(3)][改表5.11.1]

☐ 上部電動式(手動併用) ☐ 上部手動式

安全装置(一般の電動式シャッター)

[改5.11.2(4)]

☐ JIS A 4705 による危害防止装置 ☐ []

安全装置

[改5.11.2(4)]

(煙若しくは熱感知器連動機構又は手動閉鎖装置により閉鎖する屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッター)

☐ JIS A 4705 による危害防止装置

かつ「防火区画に用いる防火設備等の構造方法を定める件」

(昭和48年12月28日建設省告示第2564号)に定める基準に適合するもの

防火又は防煙シャッター以外の管理用シャッターのシャッターケース

[改5.11.2(6)]

ガイドレール形式

☐ 耐風型(はずれ止めを設ける) ☐ 一般型

☐ 15 防臭シャッター

[改5.11.2(6)]

耐風圧性能(N/㎡)

☐ 1200 ☐ 800 ☐ 図示による

気密性

JIS A 1516による気密性試験で、JIS A 4702の気密性A-3等級と同程度の通気量以下であること

開閉方式

☐ 上部電動式(手動併用) ☐ 上部手動式

安全装置

☐ JIS A 4705 による危害防止装置 ☐ []

シャッターケース

☐ 設ける ☐ 設けない

スラットの形式

オーバーラッピング形又はインターロッキング形とする。

ガイドレール形式

☐ 耐風型(はずれ止めを設ける) ☐ 一般型

☐ 16 オーバーヘッドドア

[改5.13.2(1)]

形 式

☐ 一般タイプ ☐ 防臭タイプ(開口部外側の上部及び両端のセクションに接する部分にシールを設置する)

セクション材

[改5.13.2(1)]

☐ アルミニウムタイプ ☐ スチールタイプ

☐ ファイバークラスタイプ ☐ 断熱タイプ

耐風圧性能区分

[改5.13.2(2)]

☐ 50 (500Pa) ☐ 75 (750Pa) ☐ 100 (1000Pa)

☐ 125 (1250Pa) ☐ 図示による

開閉機構

[改5.13.2(3)]

☐ バランス式 ☐ チェーン式 ☐ 電動式

収納形式

[改5.13.2(4)]

☐ スタンダード形 ☐ ローヘッド形 ☐ ハイリフト形 ☐ パーチカル形

障害物感知装置(電動式の場合)

[改5.13.2(5)]

☐ JIS A 4705 による危害防止装置

☐ 光電センサなどの非接触型 ☐ 接触型

ガイドレール

[改5.13.3(2)]

☐ ステンレスSUS304 厚2mm以上 ☐ 溶融亜鉛めっき鋼板 厚2mm以上

アルミ型材の表面処理

[改5.13.4][改表5.2.2]

☐ BB－1種 ☐ BB－2種

着色方法 ☐ 二次電解着色 ☐ []

色合い ☐ ブラック ☐ ステンカラー ☐ []

☐ ブラウン系 ☐ []

☐ BA－1種 ☐ BA－2種

着色方法 ☐ 二次電解着色 ☐ []

色合い ☐ ブラック ☐ ステンカラー ☐ []

☐ ブラウン系 ☐ []

製造所

評価名簿による

☐ 17 煙感知器連動自閉装置

[改5.14.2(1)]

機器装置一式は、別図建築電気設備工事による

☐ 18 ガラス [適用箇所、寸法及び厚さは図示による]

[改5.14.2(1)]

強化ガラス

板ガラスの材質 ☐ 図示による ☐ フロート板強化ガラス

熱線吸収板ガラス

板ガラスの材質 ☐ 図示による ☐ 熱線吸収フロート板ガラス

色 調 ☐ グレー ☐ ブルー ☐ ブロンズ ☐ グリーン

複層ガラス

板ガラスの材質 ☐ 図示による ☐ []

断熱性・日射熱遮蔽性による区分

☐ 1種 ☐ 2種 ☐ 3種(U3-1) ☐ 3種(U3-2)

☐ 4種 ☐ 5種

熱線反射ガラス

板ガラスの材質 ☐ 図示による ☐ []

色 調 ☐ ブロンズ ☐ シルバー

日射熱遮蔽性区分

☐ 1種 ☐ 2種 ☐ 3種

耐久性区分

☐ A類 ☐ B類

令和 7 年度

エ 事 名 小山ポンプ場耐水化工事

工事場所 松戸市小山180番地

図面種別 建築改修工事特記仕様書(5)

縮 尺 ー

図面番号 全 22 葉ノ内 A-05 号

松戸市建設部下水道維持課

■ 6章 塗装改修工事

一般事項

□ 1 塗装材料等

□ 屋内の壁及び天井の仕上げ材は、防火性能に関する技術的基準に適合するものとする。

□ 屋内で使用する塗料のホルムアルデヒドの放散量

□ 規制対象外 □ 第三種

特記事項

■ 1 下地調整

下地調整の種類

[改表7.2.1～7]

下地面の種類

下地調整の種類

木部

□ RA種 □ RB種 □ RC種

■ RA種 □ RB種 □ RC種

□ RA種 □ RB種 □ RC種

鉄鋼面

□ RA種 □ RB種 □ RC種

■ RA種 □ RB種 □ RC種

□ RA種 □ RB種 □ RC種

亜鉛めっき鋼面

□ RA種 □ RB種 □ RC種

□ RA種 □ RB種 □ RC種

□ RA種 □ RB種 □ RC種

モルタル面及びプラスター面

□ RA種 □ RB種 □ RC種

□ RA種 □ RB種 □ RC種

□ RA種 □ RB種 □ RC種

コンクリート面及びALCパネル面

□ RA種 □ RB種 □ RC種

□ RA種 □ RB種 □ RC種

□ RA種 □ RB種 □ RC種

コンクリート面及び押出成形セメント板面

□ RA種 □ RB種 □ RC種

□ RA種 □ RB種 □ RC種

□ RA種 □ RB種 □ RC種

せっこうボード面及びその他ボード面

□ RA種 □ RB種 □ RC種

□ RA種 □ RB種 □ RC種

□ RA種 □ RB種 □ RC種

既存モルタル面及びコンクリート面の下地調整

[改表7.2.4～6]

既存下地面のひび割れ部の補修

■ 行わない □ 行う(図示による)

既存塗膜の剥離やかき落とし作業

[改7.1.8]

■ 無

□ 有

鉛等有害物質を含有する既存塗膜の有無

□ 不明 既存塗膜の剥離やかき落とし作業を行う場合は、有害物質の調査やばく露対策について、監督職員と協議すること。

□ 有 ()

□ 無

■ 2 素地ごしらえ

[改7.3.1～改7.3.7]

■ 下記以外は(改7.3.1～改7.3.7)による

□ []

せっこうボードが継目処理工法の場合の素地ごしらえ

[改7.3.7][改表7.3.7]

□ (改7.3.7)のA種

□ []

■ 3 錆止め塗料塗り

[改7.4.2～改7.4.3]

種類

塗料種別

備考

鉄鋼面錆止め塗料

SOP □ A種

DP ■ (改7.4.3)による

EP-G □ A種 □ B種

亜鉛めっき鋼面

SOP □ A種 □ B種

DP □ B種

EP-G □ C種

■ 4 塗装塗り

[改7.4.3][改7.5.2～7.15.2][改表7.5.1～7.15.1]

塗装の種類

塗装面

工程

□ 合成樹脂調合ペイント塗り (SOP)

木部(外部)

□ B種 □ [] □ A種 □ []

[改7.5.2] [改7.5.2]

木部(内部)

□ B種 □ [] □ B種 □ []

[改7.5.2] [改7.5.2]

鉄鋼面

□ B種 □ [] □ A種 □ B種

[改7.5.3] [改7.5.3]

亜鉛めっき鋼面

□ B種 □ [] □ B種 □ []

[改7.5.4] [改7.5.4]

鋼製建具

□ A種 □ [] □ B種 □ []

[改7.5.4] [改7.5.4]

□ クリアラッカー塗り (CL)

木部

□ B種 □ [] □ A種 □ B種

[改7.6.2] [改7.6.2]

□ アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(NAD)

屋内のコンクリート面・モルタル面

□ B種 □ [] □ B種

[改7.7.2] [改7.7.2]

■ 耐候性上塗り塗料塗り (DP)

鉄鋼面

上塗り

□ A種 □ B種

[改7.4.3(1)][改7.8.2]

□ 1級(ふっ素樹脂塗料)

■ 2級(アクリルシリコン樹脂塗料)

[改7.4.3(1)][改7.8.2]

□ 3級(ポリウレタン樹脂塗料)

亜鉛めっき鋼面

上塗り

□ A種 □ B種

[改7.4.3(3)][改7.8.3]

□ 1級(ふっ素樹脂塗料)

□ 2級(アクリルシリコン樹脂塗料)

[改7.4.3(3)][改7.8.3]

□ 3級(ポリウレタン樹脂塗料)

コンクリート面

□ A-1種 □ A-2種 □ B-1種 □ B-2種 □ C-1種 □ C-2種

[改7.8.4]

■ 7章 耐震改修工事

特記事項

[改8.2.1]

■ 1 鉄筋の種類

■ 構造細目共通図による

□ 下記表による

種類の記号

呼び径(mm)

備考

□ SD295

□ D16以下

□ SD345

□ D19以上

□ []

□ []

□ []

□ []

□ 2 溶接金網

[改8.2.2]

網目の形状寸法(mm)

鉄線の径(mm)

施工箇所

□ 100×100

□ 6.0 (JIS G 3551)

□ 構造細目共通図による

□ []

■ 3 鉄筋の継手

[改8.3.4]

■ 構造細目共通図による

□ []

□ 下記表による

部位

呼び径(mm)

継手の方法

備考

□ 柱及び梁主筋

□ D19以上D29 以下

□ ガス圧接

□ []

□ 耐震壁の鉄筋

□ []

□ 重ね継手

□ []

□ 基礎、耐圧スラブ土圧壁

□ []

□ ガス圧接

□ []

□ []

□ []

□ []

■ 4 鉄筋の最小かぶり厚さ

[改8.3.5]

■ 構造細目共通図による

塩害対策

■ 必要としない

□ 必要とする

□ 5 帯 筋

[改8.3.4(6)(イ)]

□ 構造細目共通図による

□ []

□ 6 壁開口部の補強

[改8.3.7]

□ 構造細目共通図による

□ 図示による

□ 7 ガス圧接

[改8.3.8(10)(イ)] (5.4.10 (イ)(b))

圧接部の確認試験

□ 超音波探傷試験 □ 引張試験

■ 8 コンクリートの材料

[改8.2.5(1)]

セメントの種類

■ 普通ポルトランドセメント

普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210の規定に適合し、かつ、次の規定に適合するものとする。

水和熱が7日目で352J/g以下、28日目で402J/g以下とする。

□ 早強ポルトランドセメント(JIS R 5210)

□ 高炉セメントのB種(JIS R 5211) G

骨 材

[改8.2.5(2)]

砕石及び砕砂(JIS A 5308 付属書A)のアルカリシリカ反応性による区分

■ A

□ B (アルカリ骨材反応抑制対策を行う)

細骨材の塩分含有量(%)

■ 0.04以下

□ []

混和材料の種類

[改8.2.5(4)]

□ 混和剤

JIS A 6204 に適合するAE剤、AE減水剤及び高性能AE減水剤とし、化学混和剤の塩化物イオン量による区分はⅠ種とする。

また、防錆材を併用する場合はJIS A 6205 に適合する防錆材とする。

□ 混和材

JIS A 6201 に適合するフライアッシュのⅠ種、Ⅱ種若しくはⅣ種、JIS A 6206 による高炉スラグ微粉末、JIS A6207 によるシリカフェーム又は JIS A 6202 に適合する膨張材とする。

■ 9 コンクリートの種類

[改8.1.3][改表8.1.1]

■ コンクリートの種別

■ Ⅰ類 (JIS A 5308に適合したコンクリート)

□ Ⅱ類 (JIS A 5309への適合を認証されたコンクリート)

■ コンクリートの仕様

[改8.1.4(1)(ア)][改8.1.4(2)(イ)]

■ 構造細目共通図による

□ 下記表による

適用箇所

設計基準強度(N/mm2)

スランプ(cm)

気乾単位容積質量(t/m3)

セメントの種類

備考

□ 24 □ 18 □ 2.3程度 □ 普通ポルトランドセメント □ 高炉セメントB

□ 24 □ 15 □ 2.3程度 □ 普通ポルトランドセメント □ 高炉セメントB

□ [] □ [] □ [] □ []

□ [] □ [] □ [] □ []

■ 構造体強度補正値

■ 改8.2.5、改8.10.2、改8.11.2による

□ []

■ 10 コンクリートの品質

[改8.1.4(3)(ア)]

コンクリート部材の位置及び断面寸法の許容差並びにその測定方法

許容差 ■ [改8.1.4(3)(ア)①]による □ 図示による

測定方法 ■ [改8.1.4(3)(ア)②]による □ 図示による

コンクリートの打放し仕上げ

[改8.1.4(3)(イ)][改表8.1.4]

合板せき板を用いる場合

種 別

適用箇所

□ A種

■ B種

内外壁打放し仕上面、梁型打放し仕上面、防水層立上り下地面

□ C種

床版下及び梁下打放し仕上面、防水層押え立上り面

コンクリートの仕上りの平坦さ

[改8.1.4(3)(イ)]

■ [改表8.1.5]による □ 図示による

外部に面するコンクリート打放し仕上面の打増し厚さ(mm)

[改8.7.8(1)(オ)]

□ 30 □ 図示による

内部に面するコンクリート打放し仕上面の打増し厚さ(mm)

[改8.7.8(1)(オ)]

□ 20 □ 図示による

■ 11 型枠

[改8.2.7]

型枠(せき板)の種類

■ 合板 塗装の有無 □ 有(内部打放しB・C種で、吹付け・塗装等を行わない面)

■ 無(上記以外)

貫通孔(スリーブ)

[改8.2.7(7)]

材 種

仕様箇所

溶融亜鉛めっき鋼板

下記以外の円形スリーブ

つば付き鋼管

外壁の地中部分等水密を要する部分のスリーブ

硬質塩化ビニル管

地中部分で水密を要しない部分のスリーブ

紙スリーブ

柱及び梁以外の箇所で、開口補強が不要であり、かつ、スリーブ径が200mm以下の部分

■ 12 モルタル及びグラウト材

[改8.2.12(1)]

柱底等の均しモルタル

■ 無収縮モルタル 製造所は、評価名簿による

[改8.2.12(2)]

グラウト材

□ 無収縮グラウト材 製造所は、評価名簿による

構造体用モルタルの圧縮強度及びフロー値

[改8.2.6]

□ 図示による

令和 7 年度

エ 事 名

小山ポンプ場耐水化工事

工事場所

松戸市小山180番地

図面種別

建築改修工事特記仕様書(6)

縮 尺

—

図面番号

全 22 葉ノ内 A-06 号

松戸市建設部下水道維持課

[illegible]

構造細目共通図

(建築構造物)

1. 特記事項

1. 1 適用範囲

- 本構造細目共通図は、下水道施設における浄化センター及びポンプ場の建築構造物に適用する。
- 図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、1.1表に基づくものとし、これらに相違がある場合は監督員に確認し指示を受ける。

1.1表 適用基準

建築 工事	1) 建築工事特記仕様書	(別紙による。)
	2) 公共建築工事標準仕様書(建築工事編)	
	3) 鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説	

- 項目に関しては、○印のついたものを適用する。○印のない場合は、※印のあるものを適用する。○印と※印のある場合は、共に適用する。

1. 2 鉄筋の仕様

- 鉄筋の種類及び継手は、1.2表による。

1.2表 鉄筋の種類及び継手

分類	項 目	種 別	鉄筋径
建築躯体	鉄筋の種類	SD 295	※ D16以下
		SD 345	※ D19以上
	鉄筋の継手	ガス圧接	※ D19以上の柱及び梁の主筋
		重ね継手	※ 上記以外
		機械継手	※ 図示による

1. 3 コンクリートの仕様

- コンクリートの仕様は、1.3表による。

1.3表 コンクリートの仕様

分 類	コンクリート種別	強度 (N/mm ²)	スランプ (cm)	セメントの種類
建築	鉄筋 コンクリート	※24	※18	※ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメントA
	無筋 コンクリート	※18	※15	※ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメントA
	捨て コンクリート	※18	※15	※ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメントA
	・	・	・	・

1. 4 砕石基礎工及び捨てコンクリート

- 砕石及び捨てコンクリートの厚さは、1.4表による。

1.4表 砕石及び捨てコンクリートの厚さ

部 位	種 別	厚さ (mm)
建築工事	砕石 (RC-4C)	※ 60 ・ 200
	捨てコンクリート	※ 50 ・ 100

2. 共通事項

2. 1 記号及び符号

- 設計図中で使用する記号及び符号は、2.1表及び2.2表を標準とする。

2.1表 鉄筋の断面表示

区分	径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建 築		●	×	∅	●	○	⊙	⊗	⊙
土 木		・ 又は建築による。							

2.2表 一般凡例

記 号・符 号	内 容	※印の説明及び注意事項
F※	フーチング断面種別	※ 番号
※1C※2	柱断面種別	※1 階数 ※2 その階の番号
※1G※2	大梁断面種別	※1 階数、地中大梁はFとする ※2 その階の番号 X方向1、2、3----- Y方向A、B、C-----
CG※	片持大梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない
※1B※2	小梁断面種別	※1 地中小梁のみFとする。 ※2 階別区分はしない 地中小梁を除く
CB※	片持小梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない
※1W※2	壁配筋種別	※1 E：耐震壁、K：階段壁 D：土圧、水圧を受ける壁 階別区分はしない ※2 壁厚 (cm)
※1S※2※3	床版配筋種別	※1 片持床版のみCとする ※2 床版厚 (cm) ※3 配筋種別 (英大文字) 階別区分はしない
※1K※2	階段の配筋種別	※1 A：片持床版形 B：二辺固定床版形 ※2 配筋種別 (数字) 階別区分はしない
CB※	コンクリートブロック壁	※ 壁厚 (cm)
	打ち増し範囲	
	梁・床版の上がり下がり	一般には基準FLよりの＋、－に応じた凡例により表示
(※)	床用積載荷重	積載荷重の値 (kN/m ²)
STP	あばら筋、スターラップ	梁、基礎梁、小梁
HOOP	帯筋、帯鉄筋、フープ	柱
S.HOOP	スパイラル筋、らせん筋	柱
幅止筋	幅止め筋	柱、梁、壁
組立筋	組立て筋	床版、底版

3. 鉄筋の曲げ加工

- 鉄筋の曲げ加工は、3.1表を標準とする。
- Dは曲げ内法直径、dは鉄筋直径(呼び名)を示す。

3.1表 鉄筋の折曲げ形状及び寸法

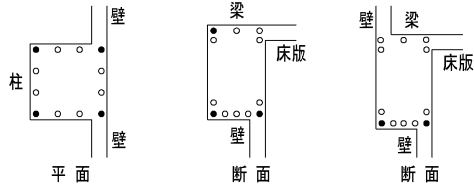
曲げ 角度	折 曲 げ 図	SD295 SD345	
		D16以下	D19～D38
180°		D	3d以上
135°		D	3d以上
90°		D	3d以上
135° 90°		D	3d以上

4. 異形鉄筋の末端部

- 異形鉄筋の末端部には、4.1表によりフックを設ける。

4.1表 フックを設ける位置

部 位	継手方式		備 考
	重ね継手	圧接継手	
柱	四隅の主筋	1) 最上階の柱頭 2) 継手部	4.1 図の●印 9.1 図参照
	上下階の柱断面が異なる場合	1) 下階の柱主筋を引き通す事が出来ない柱頭部	4.1 図の●印 9.2 図参照
	帯筋(HOOP)	1) 末端部 2) 継手部	10.1 図参照
梁	主筋	1) 出隅及び下端筋の両端(基礎梁は除く)	4.1 図の●印
	あばら筋(STP)	1) 末端部 2) 継手部	11.1 図参照
煙突の鉄筋	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部	壁の一部となる場合を含む
幅止め筋			3.1表参照



4.1図 異形鉄筋の末端部

5. 鉄筋の最小かぶり厚さ

- 最小かぶり厚さは、5.1表による。
- 床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含まない。
- 柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保して最小かぶり厚さを定める。
- 溶接金網にも適用する。
- 杭基礎の場合は、杭天端からのかぶりとする。

5.1表 鉄筋の最小かぶり厚さ(mm)

構造部分の種別		通常の施工の場合	塩害対策を必要とする場合
一 般	床、耐力壁以外の壁	30	40
	柱、梁、耐力壁	40	50
	底版	40	50
土、水に接する部分	柱、梁、床、壁	40	50
	底版、基礎	60	70
煙突等高熱を受ける部分		60	70

- 打継目地部分は目地底より最小かぶり厚さを確保する。
- 仕上なしの場合を標準とする。
- 塩害対策を必要とする地域とは、砂町、東プラ、森ヶ崎、南プラ、芝浦、葛西、その他港湾地区のこと。

6. 最小鉄筋芯間隔

- 最小鉄筋芯間隔、6.1図及び6.1表による。

6.1表 鉄筋径と鉄筋間隔

鉄筋径 d	鉄筋径 (mm)		最小鉄筋芯間隔
	鉄筋径 d	最外径 D	
D10	11		42mm
D13	14		45mm
D16	18		49mm
D19	21		52mm
D22	25		58mm
D25	28		66mm
D29	33		77mm

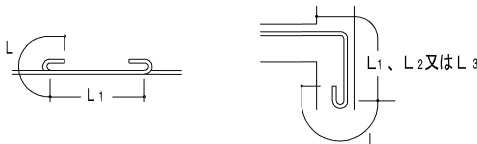
7. 鉄筋の継手及び定着

7. 1 継手長及び定着長

- 径が異なる鉄筋の継手長さは、細い鉄筋の径による。
- 鉄筋の継手及び定着の長さは、7.1表による。
- フックのある場合のL1、L2及びL3は、7.1図に示すようにフック部分Lを含まない。

7.1表 鉄筋の重ね継手及び定着の長さ

鉄筋の種 別	設計基準強度 (N/mm ²)	フックなし				フックあり			
		L1	L2	L3		L1	L2	L3	
SD295	21	40d	35d	20d	10d かつ 150mm 以上	30d	25d	10d	-
	24、27	35d	30d			25d	20d		
SD345	21	45d	35d			30d	25d		
	24、27	40d	35d			30d	25d		



7.1図 フックのある場合の継手及び定着要領

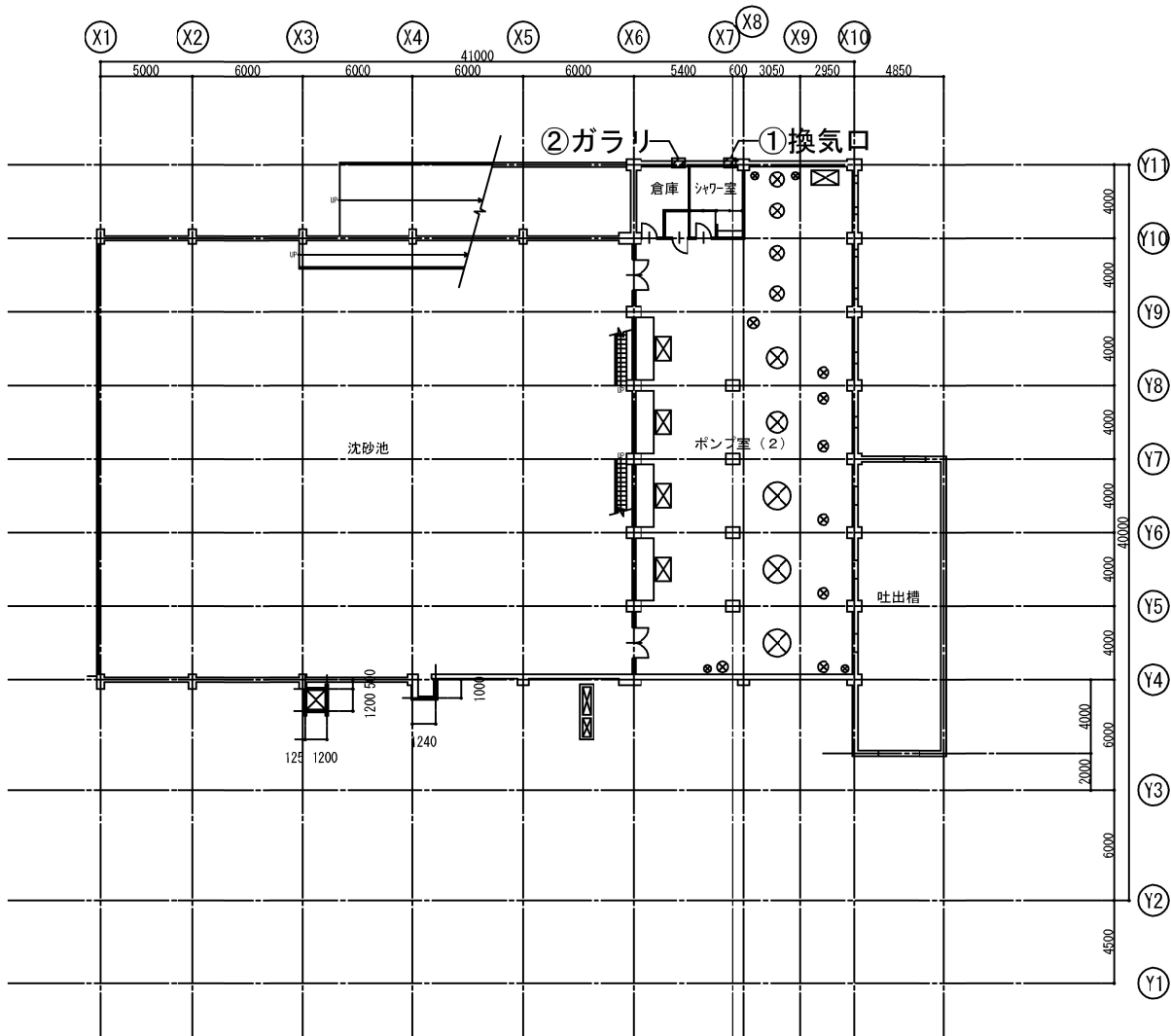
7. 2 継手の特記事項

- 継手は、極力応力の小さい位置に設ける。
- 異種径の鉄筋をガス圧接する場合は、鉄筋径の直近の範囲内とする。

令和 7 年度	
工 事 名	小山ポンプ場耐水化工事
工事場所	松戸市小山180番地
図面種別	構造細目共通図
縮 尺	—
図面番号	全 22 葉ノ内 A-08 号
松 戸 市 建 設 部 下 水 道 維 持 課	

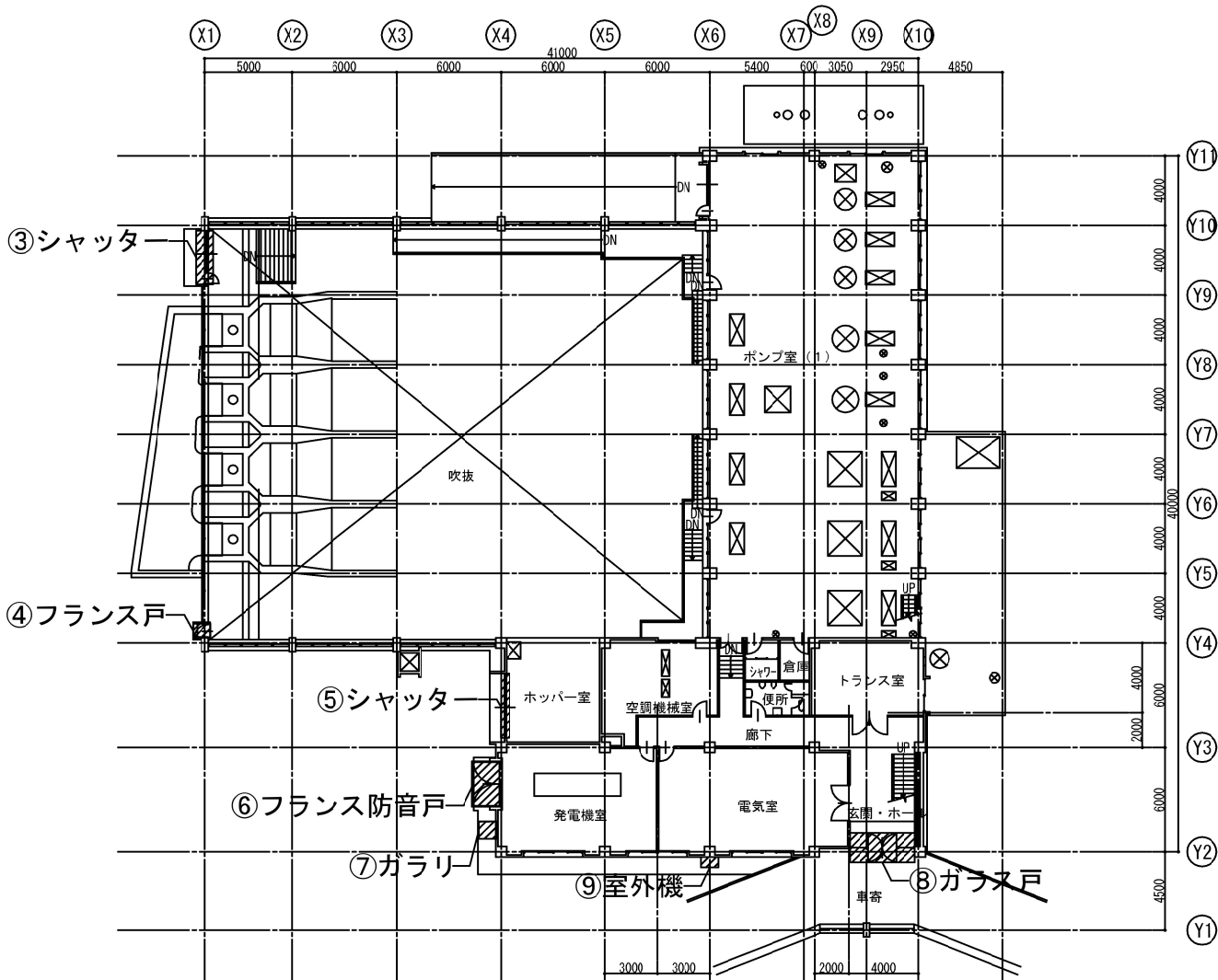
外 部 仕 上 表

		腰	外 壁	建 具	土 間	備 考
東	改修前	・モルタル刷毛引き	・モルタル下地 リシンガン仕上	・アルミニウムサッシ	・スロープ:コンクリート金ゴテ仕上 ・犬走りモルタル	スロープ:ガードレール
	改修後	・モルタル刷毛引き	・モルタル下地 リシンガン仕上	・アルミニウムサッシ	・スロープ:コンクリート金ゴテ仕上 ・犬走りモルタル	スロープ:ガードレール
西	改修前	・モルタル刷毛引き	・モルタル下地 モザイクタイル貼り仕上 ・モルタル下地 窯業タイル貼り仕上	・アルミニウムサッシ	・スロープ:コンクリート金ゴテ仕上 ・犬走りモルタル	煙突:コンクリート打放し(一部窯業タイル仕上)
	改修後	・モルタル刷毛引き	・モルタル下地 モザイクタイル貼り仕上 ・モルタル下地 窯業タイル貼り仕上	・アルミニウムサッシ	・スロープ:コンクリート金ゴテ仕上 ・犬走りモルタル	煙突:コンクリート打放し(一部窯業タイル仕上)
南	改修前	・モルタル刷毛引き	・モルタル下地 モザイクタイル貼り仕上 ・モルタル下地 窯業タイル貼り仕上	・アルミニウムサッシ	・スロープ:コンクリート金ゴテ仕上 ・犬走りモルタル	
	改修後	・モルタル刷毛引き	・モルタル下地 モザイクタイル貼り仕上 ・モルタル下地 窯業タイル貼り仕上	・アルミニウムサッシ	・スロープ:コンクリート金ゴテ仕上 ・犬走りモルタル	
北	改修前	・モルタル刷毛引き	・沈砂池上屋:ALC下地 EP吹付仕上 ・管理側:モルタル下地 モザイクタイル貼り仕上 ・機械側:モルタル下地 リシンガン仕上	・アルミニウムサッシ ・スチールシャッター	・スロープ:コンクリート金ゴテ仕上 ・犬走りモルタル	
	改修後	・モルタル刷毛引き	・沈砂池上屋:ALC下地 EP吹付仕上 ・管理側:モルタル下地 モザイクタイル貼り仕上 ・機械側:モルタル下地 リシンガン仕上	・アルミニウムサッシ ・スチールシャッター ・スチールドア	・スロープ:コンクリート金ゴテ仕上 ・犬走りモルタル	



地下1階平面図

耐水化対策一覧(建築工事)			
No.	階数	対策箇所	対策内容
①	地下1階	換気口	開口閉塞
②	地下1階	ガラリー	開口閉塞
③	地上1階	シャッター	止水板の設置
④	地上1階	フランス戸	防水ドアの設置
⑤	地上1階	シャッター	止水板の設置
⑥	地上1階	フランス防音戸	止水板の設置
⑦	地上1階	ガラリー	防護壁+止水板の設置
⑧	地上1階	ガラス戸	止水板の設置
⑨	地上1階	室外機	上部移設

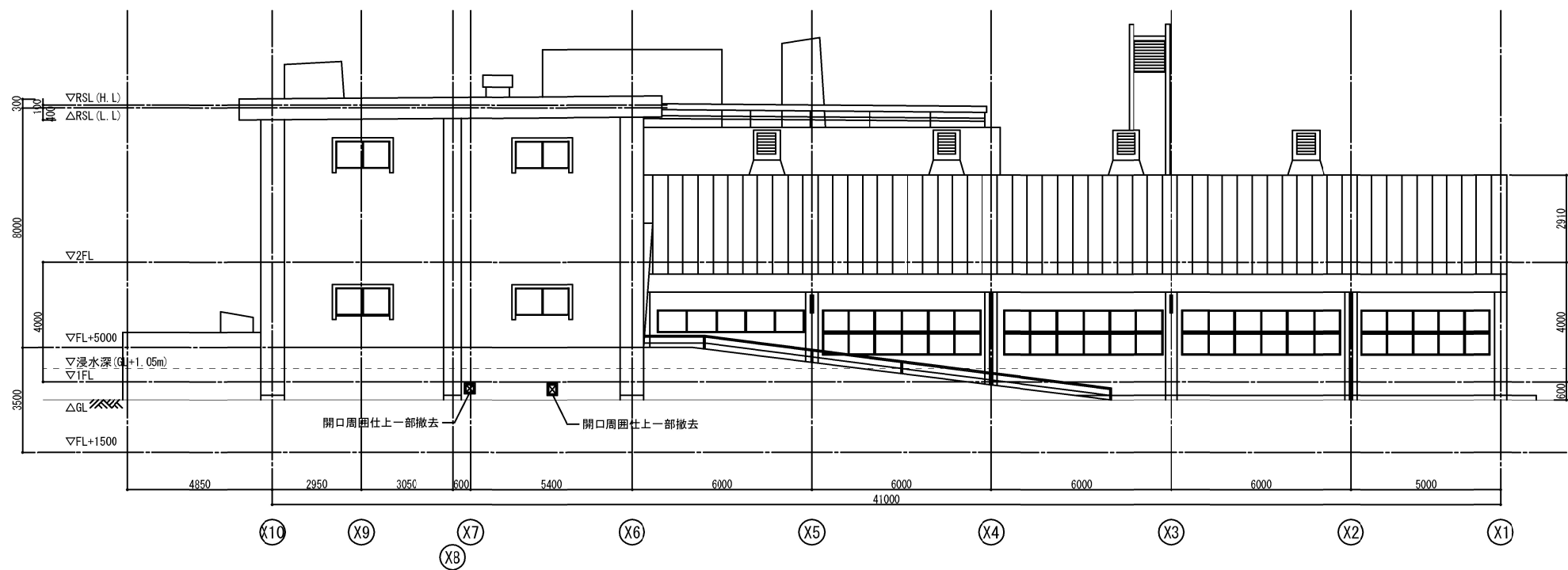


1階平面図

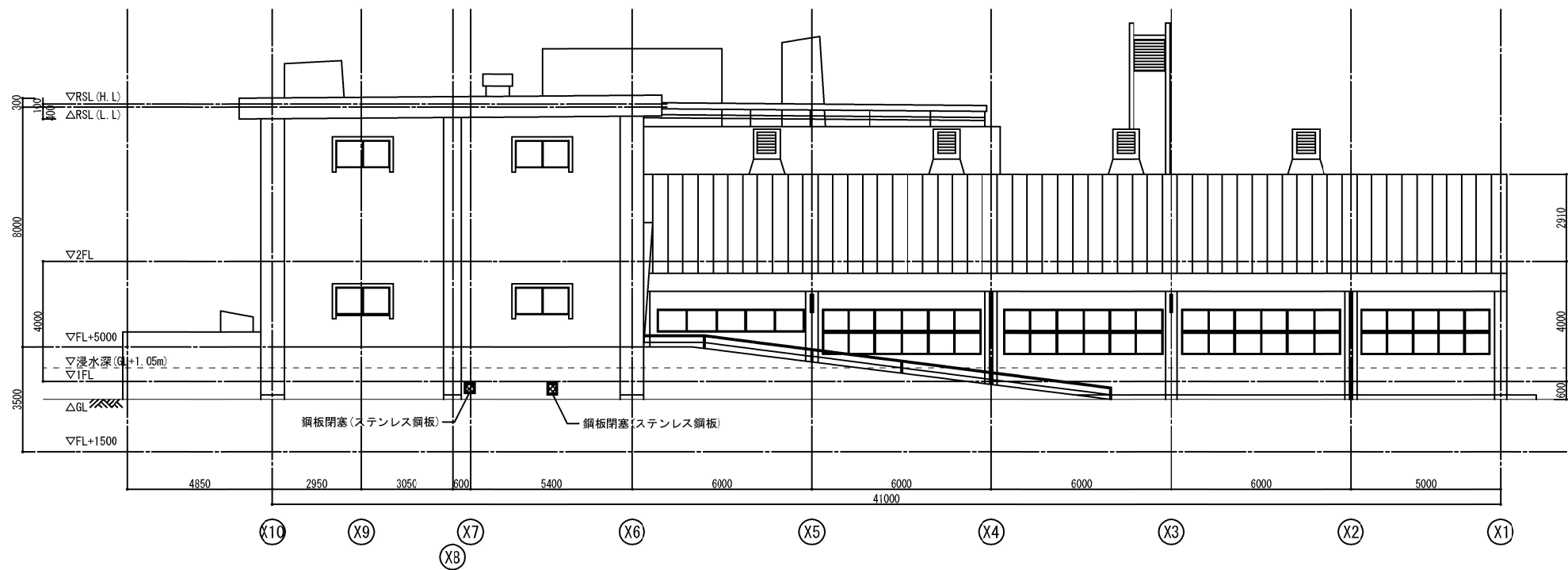
【凡例】

浸水対策箇所

令和 7 年度	
工 事 名	小山ポンプ場耐水化工事
工事場所	松戸市小山180番地
図面種別	1階・地下1階平面図・外部仕上表
縮 尺	A1:1/200 A3:1/400
図面番号	全 22 葉ノ内 A-9 号
松戸市建設部下水道維持課	

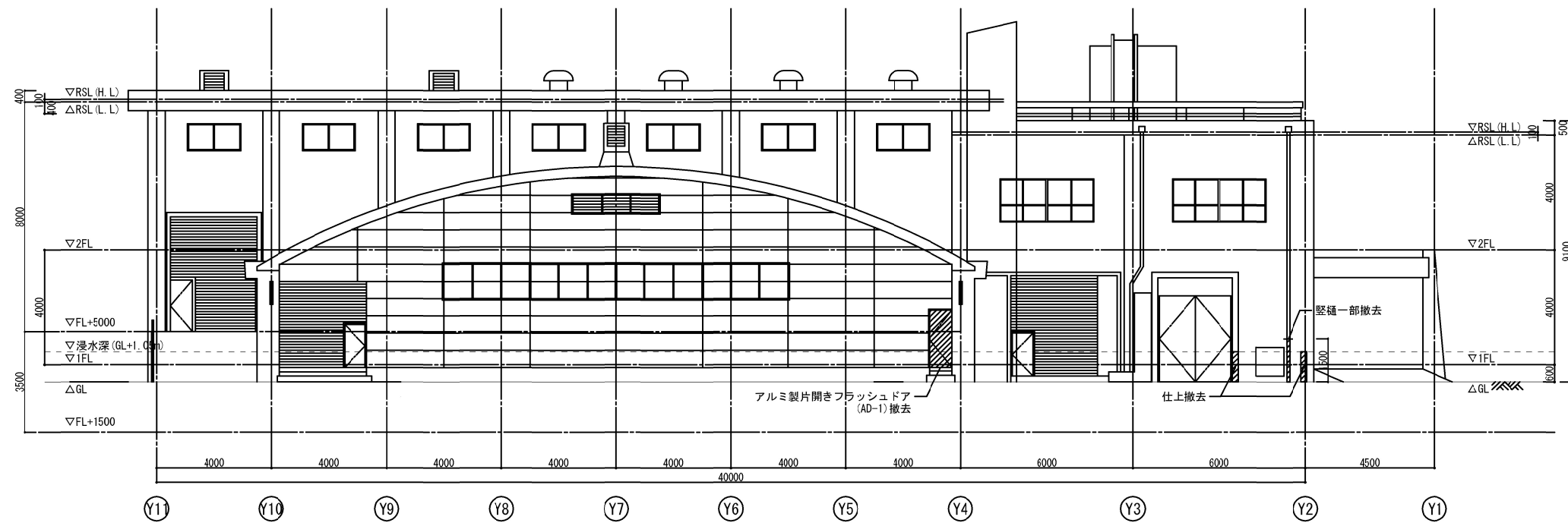


東立面図 (改修前)

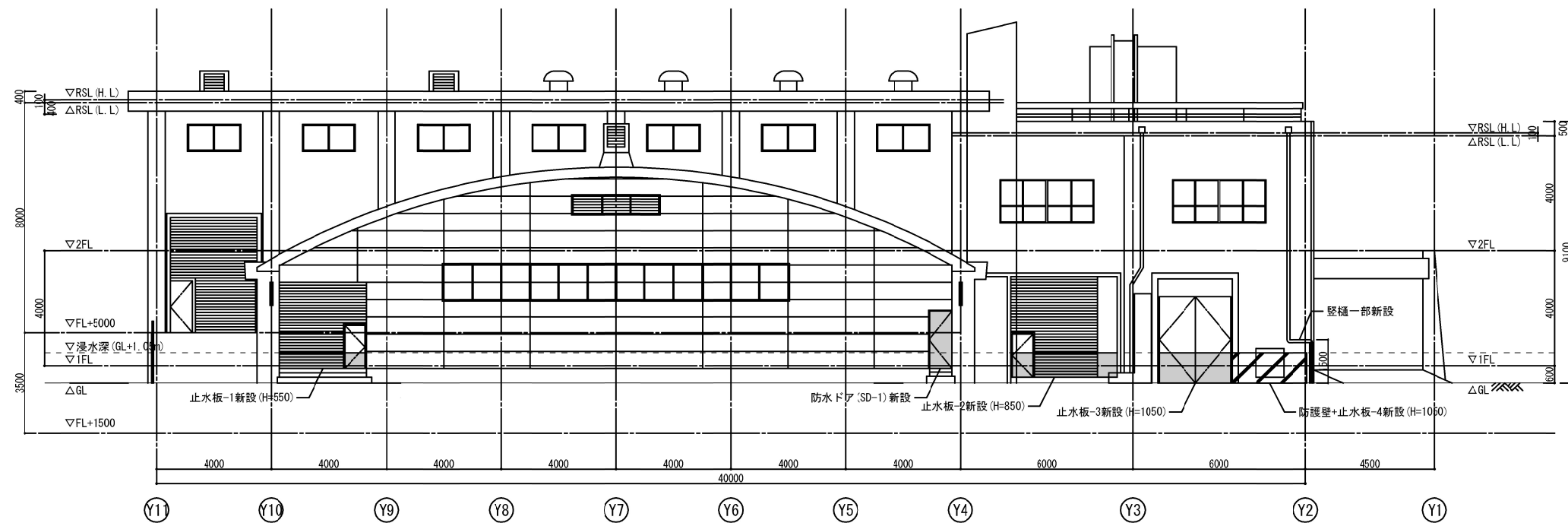


東立面図 (改修後)

令和 7 年度	
工 事 名	小山ポンプ場耐水化工事
工事場所	松戸市小山180番地
図面種別	東立面図 (改修前後)
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200
図面番号	全 22 葉ノ内 A-10 号
松 戸 市 建 設 部 下 水 道 維 持 課	

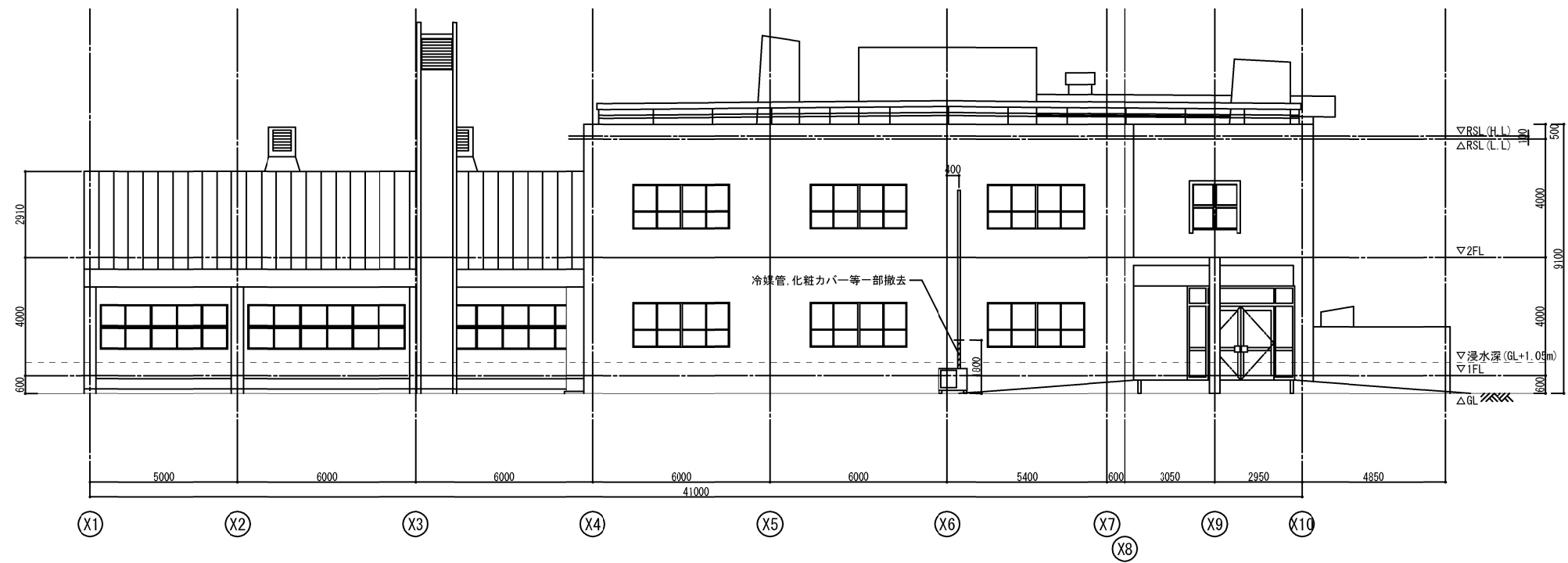


北 立面図 (改修前)

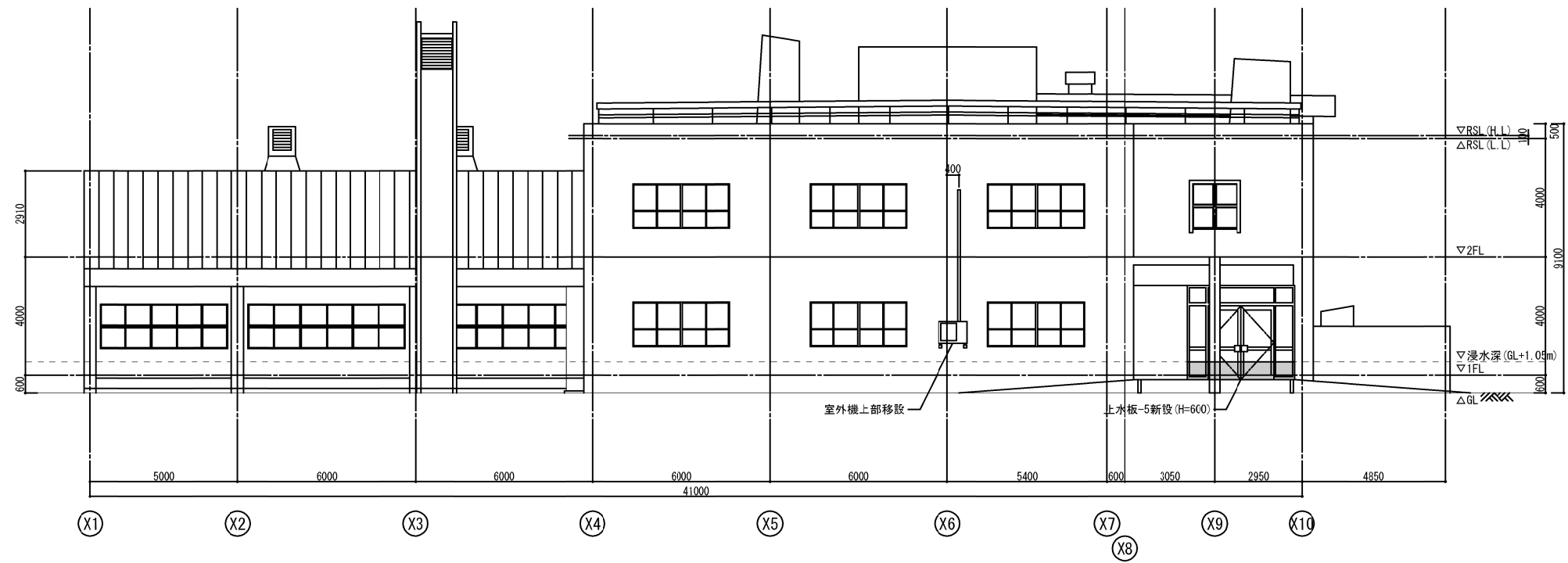


北 立面図 (改修後)

令和 7 年度	
工 事 名	小山ポンプ場耐水化工事
工事場所	松戸市小山180番地
図面種別	北立面図 (改修前後)
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200
図面番号	全 22 葉ノ内 A-11 号
松戸市建設部下水道維持課	

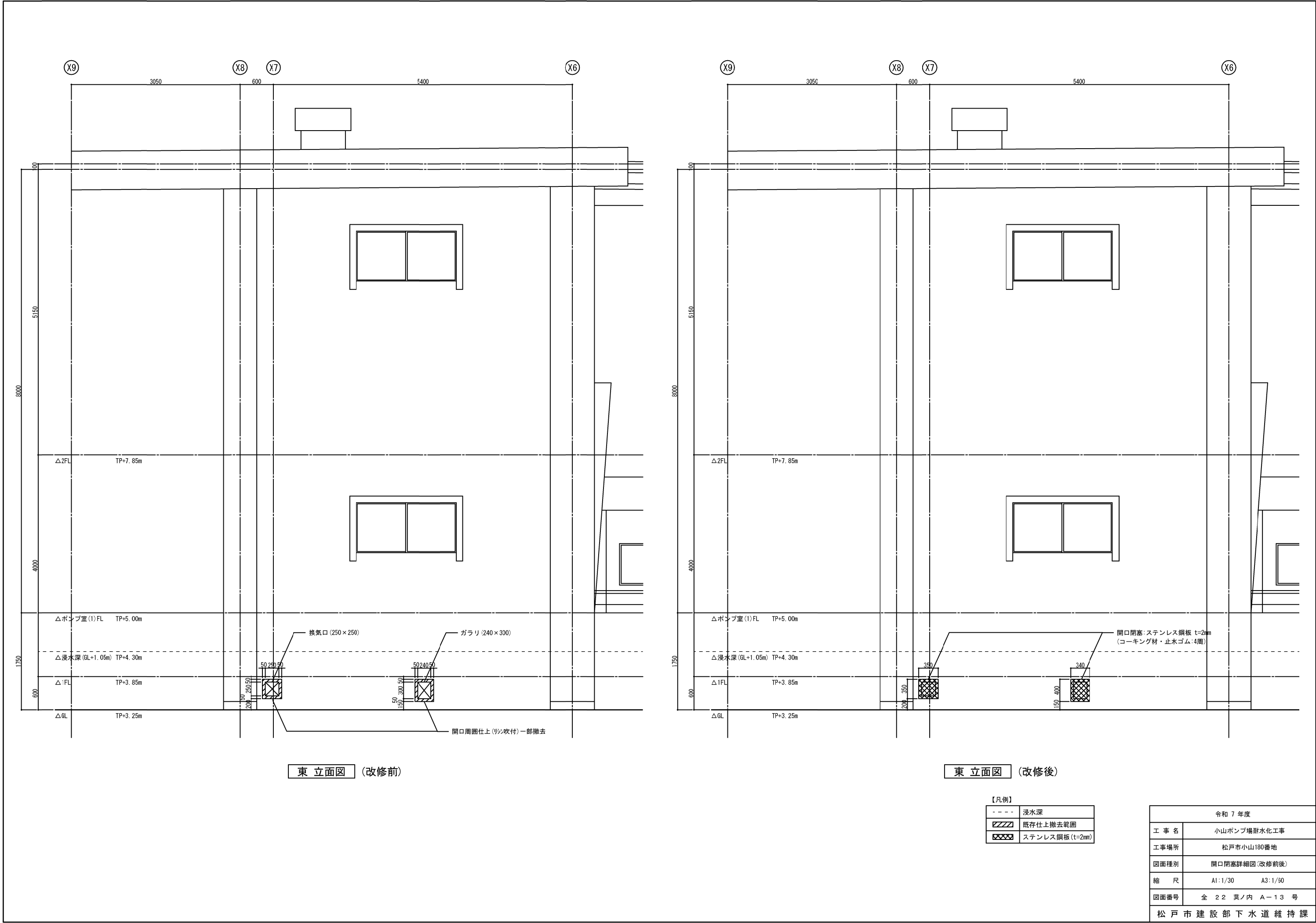


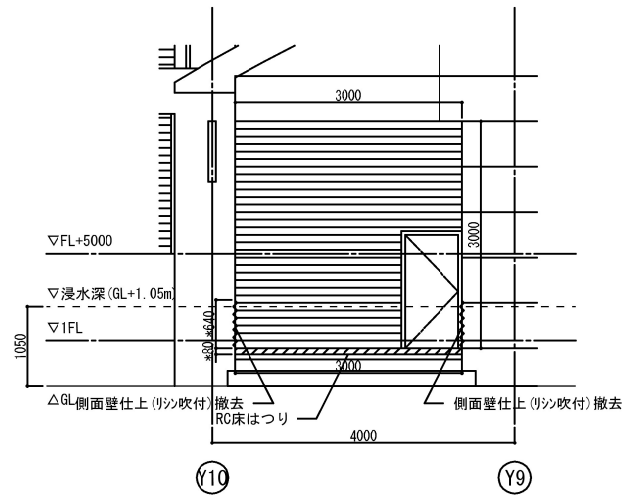
西 立面図 (改修前)



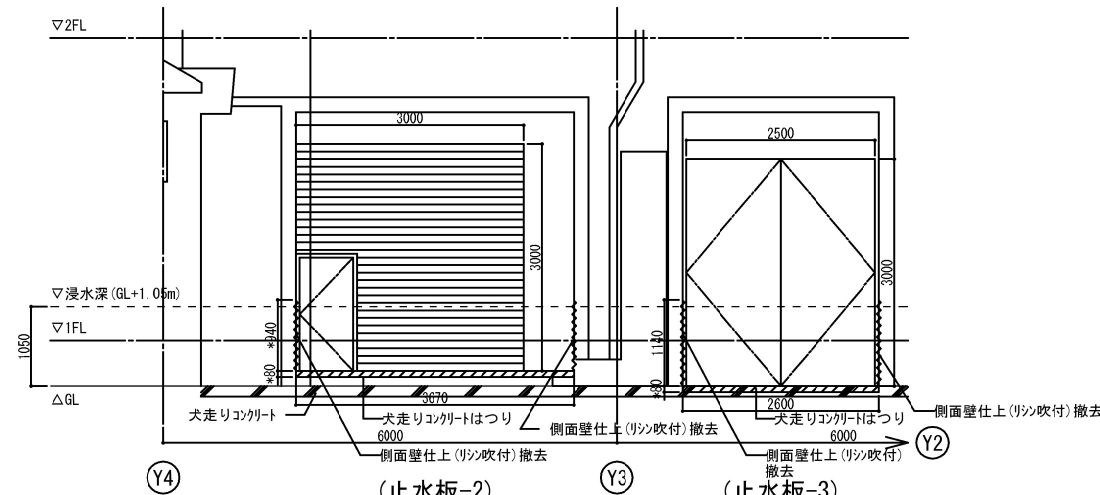
西 立面図 (改修後)

令和 7 年度	
工 事 名	小山ポンプ場耐水化工事
工事場所	松戸市小山180番地
図面種別	西立面図 (改修前後)
縮 尺	A1: 1/100 A3: 1/200
図面番号	全 22 葉ノ内 A-12 号
松 戸 市 建 設 部 下 水 道 維 持 課	

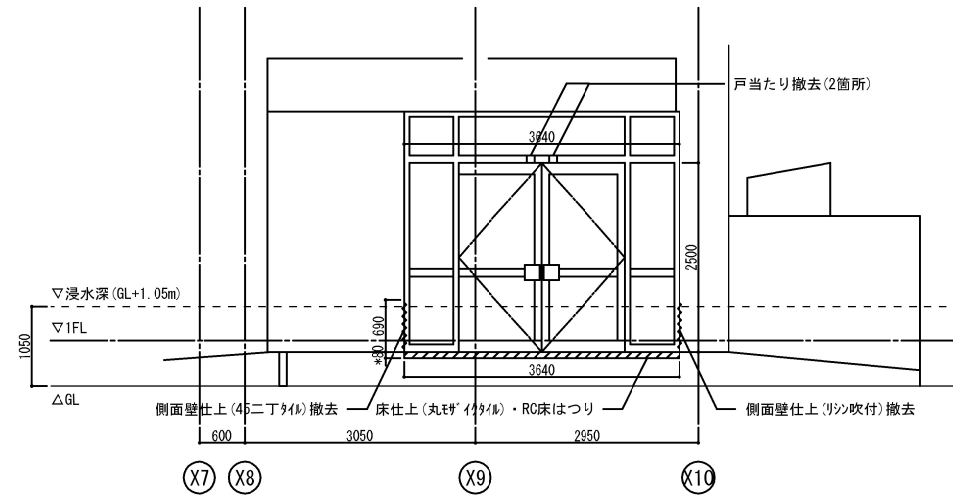




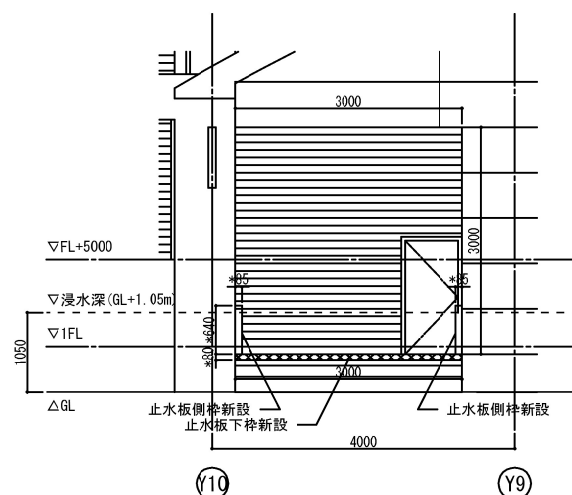
止水板-1 立面図 (改修前)



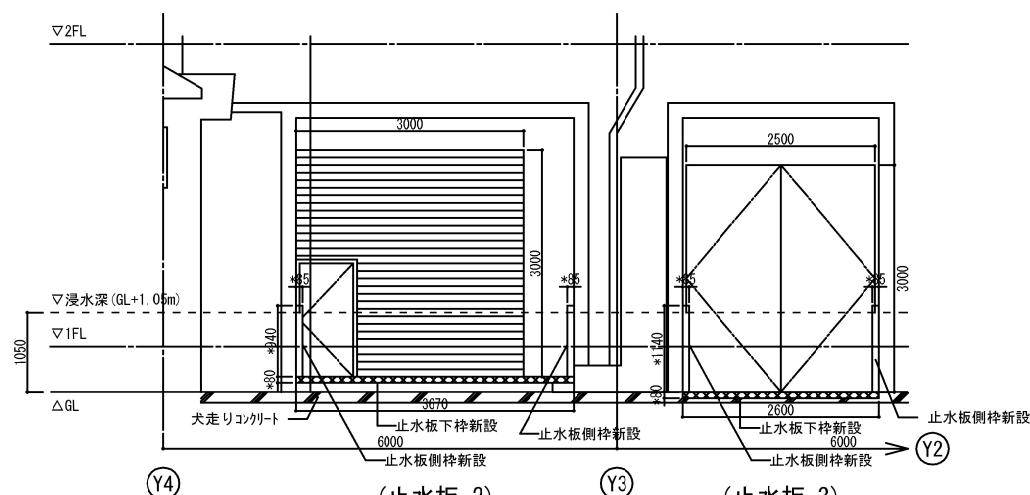
止水板-2, -3 立面図 (改修前)



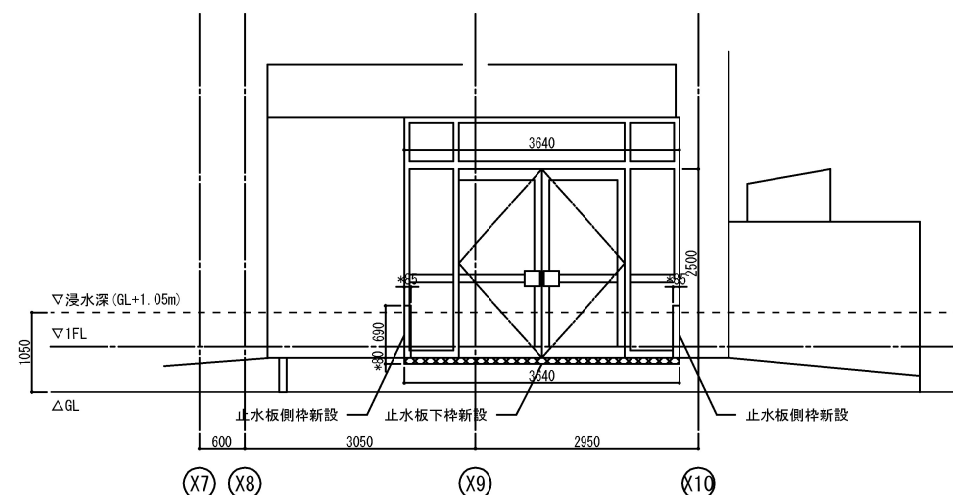
止水板-5 立面図 (改修前)



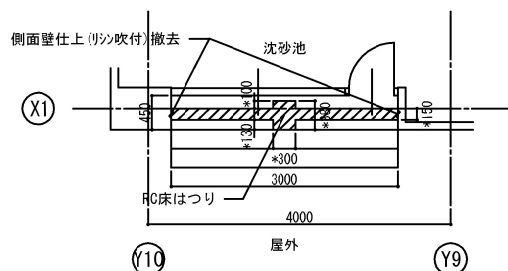
止水板-1 立面図 (改修後)



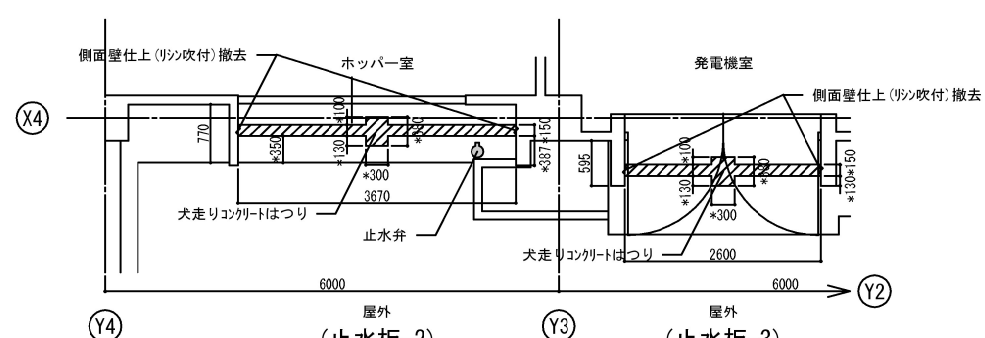
止水板-2, -3 立面図 (改修後)



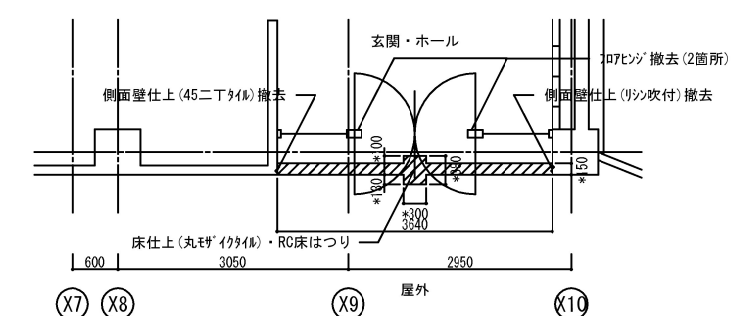
止水板-5 立面図 (改修後)



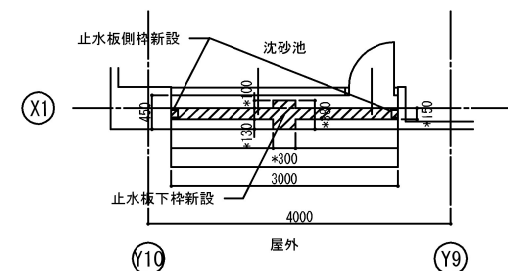
止水板-1 平面図 (改修前)



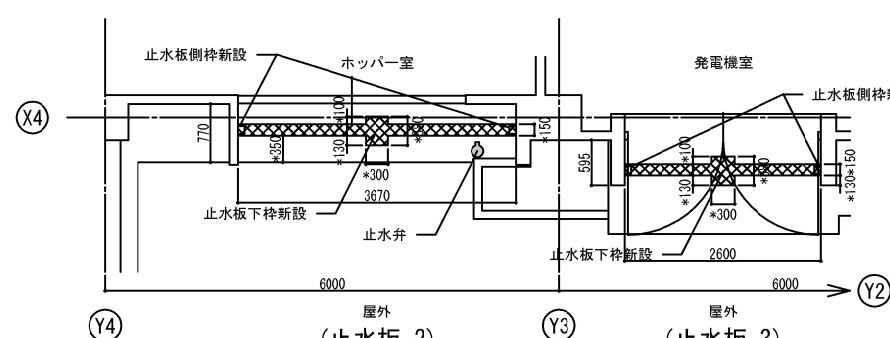
止水板-2, -3 平面図 (改修前)



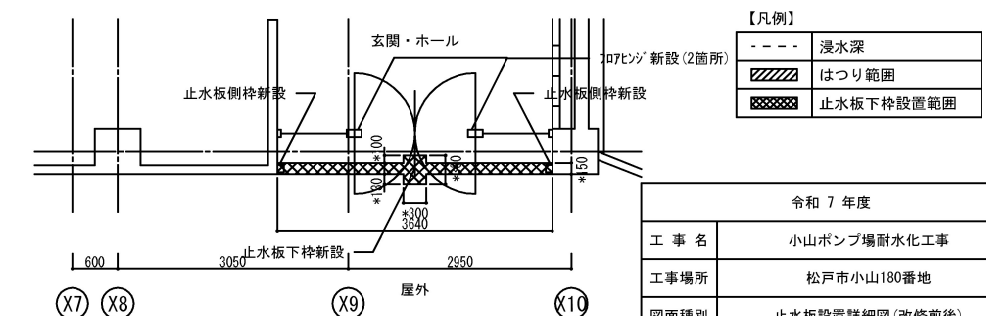
止水板-5 平面図 (改修前)



止水板-1 平面図 (改修後)



止水板-2, -3 平面図 (改修後)

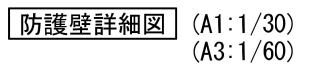
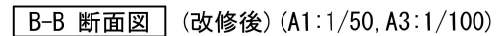
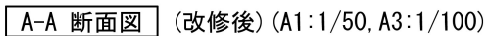
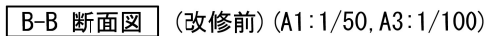
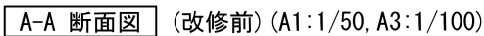
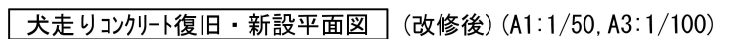
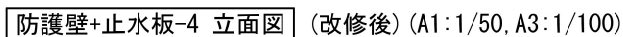
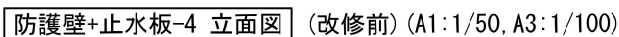
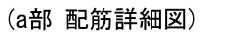
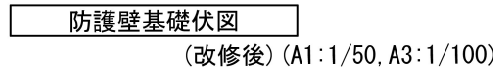
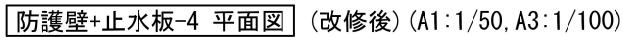
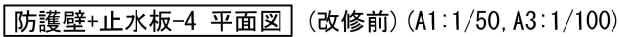


止水板-5 平面図 (改修後)

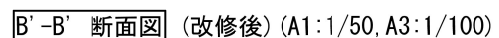
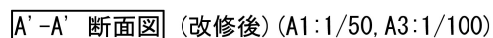
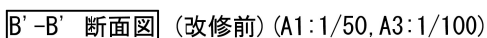
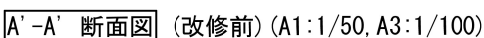
※犬走りコンクリート・RC床はつりはコンクリートカー入れの上、行う ※:参考値(メーカ仕様による)

【凡例】	
----	浸水深
////	はつり範囲
XXXX	止水板下枠設置範囲

令和 7 年度	
工 事 名	小山ポンプ場耐水化工事
工事場所	松戸市小山180番地
図面種別	止水板設置詳細図(改修前後)
縮 尺	A1:1/50 A3:1/100
図面番号	全 22 葉ノ内 A-14 号
松戸市建設部下水道維持課	



*:参考値(メーカー仕様による)



令和 7 年度	
工 事 名	小山ポンプ場耐水化工事
工事場所	松戸市小山180番地
図面種別	防護壁+止水板設置詳細図(改修前後)
縮 尺	A1:図示 A3:図示
図面番号	全 22 葉ノ内 A-15 号
松 戸 市 建 設 部 下 水 道 維 持 課	

止水板-4 平面詳細図(左右分割なし)

側杵姿図

止水板-4 正面姿図(左右分割なし)

側杵姿図

止水板-1, -2, -3, -5 平面詳細図(左右2分割)

側杵姿図

止水板-1, -2, -3, -5 正面姿図(左右2分割)

側杵姿図

A-A断面图(止水板-1)

A-A断面図(止水板-3)

A-A断面图(止水板-2)

A-A断面図(止水板-5)

止水板名称	枠外寸法	*枠内寸法	*止水板幅	浸水高さ
止水板-1	3000mm	2830mm	1392.5mm	H=550
止水板-2	3670mm	3500mm	1727.5mm	H=850
止水板-3	2600mm	2430mm	1192.5mm	H=1050
止水板-5	3640mm	3470mm	1712.5mm	H=600

*:参考値(メーカ仕様による)

令和 7 年度		
工 事 名	小山ポンプ場耐水化工事	
工事場所	松戸市小山180番地	
図面種別	止水板詳細図	
縮 尺	A1:1/20	A3:1/40
図面番号	全 22 葉ノ内 A-16 号	
松 戸 市 建 設 部 下 水 道 維 持 課		

建具表

符号	名称	個数	AD 1	アルミ製片開きフラッシュドア(撤去)	1	SD 1	スチール製片開き防水ドア(新設) (浸水深1m対応)	1
場所			1階 沈砂池		<外部>		1階 沈砂池	<外部>
仕上(枠共)			AL		S(DP)			
建具	見込(ランマ)	40			メーカー仕様による			
	硝子(ランマ)	—						
	ガラリ(ランマ)	—						
建具枠	見込取合 查摺	70			メーカー仕様による			
枠記号 查摺(水切)記号			—		I型(メーカー仕様による)			
建具金物					レバーハンドル(止水型、シリンダ・錠付)、丁番、戸当、DC(ストッパ)無し			
その他					耐風圧性能:S-4、漏水量の等級:Ws-3と同等以上			
形状・寸法								

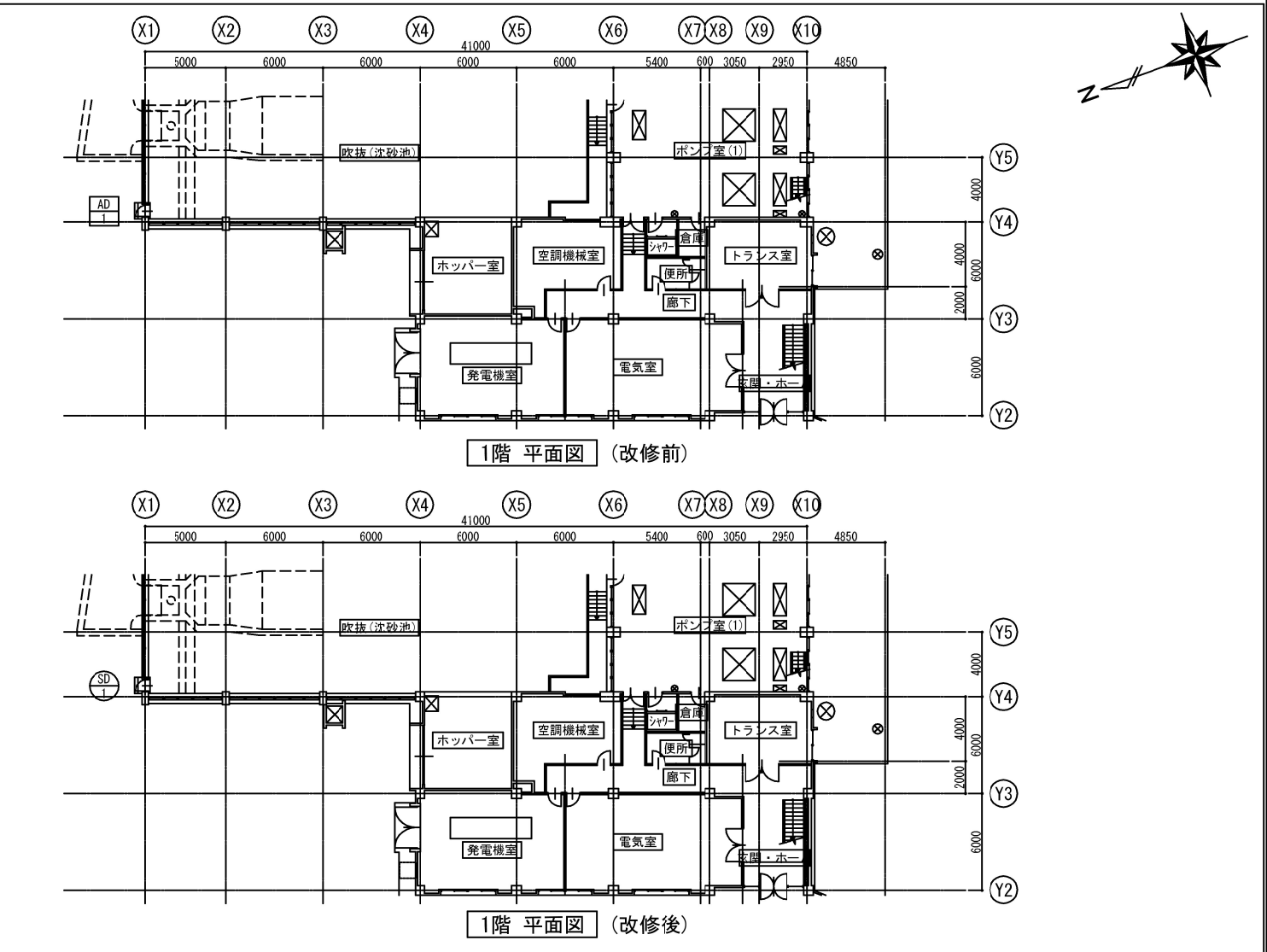
略号

建具・材質・仕上・その他			
AD	：アルミニウム製ドア	SD	：鋼製ドア
AL	：アルミニウム	S	：スチール
DP	：耐候性塗料	DC	：ドアチェック
I型	：		

共通事項

- 特記なき限りは、シリンダ錠（内部サムターン）とする。
- 大型、気密鋼製建具はシリンダ本締め付きとする。
- 特記なき限り鋼製戸の見込みは40mmとする。
- 特記なき限り気密扉・簡易気密扉の吸音材の充填は行わないものとする。
- 特記なき限り扉の取手はレバーハンドルとする。

KEY PLAN

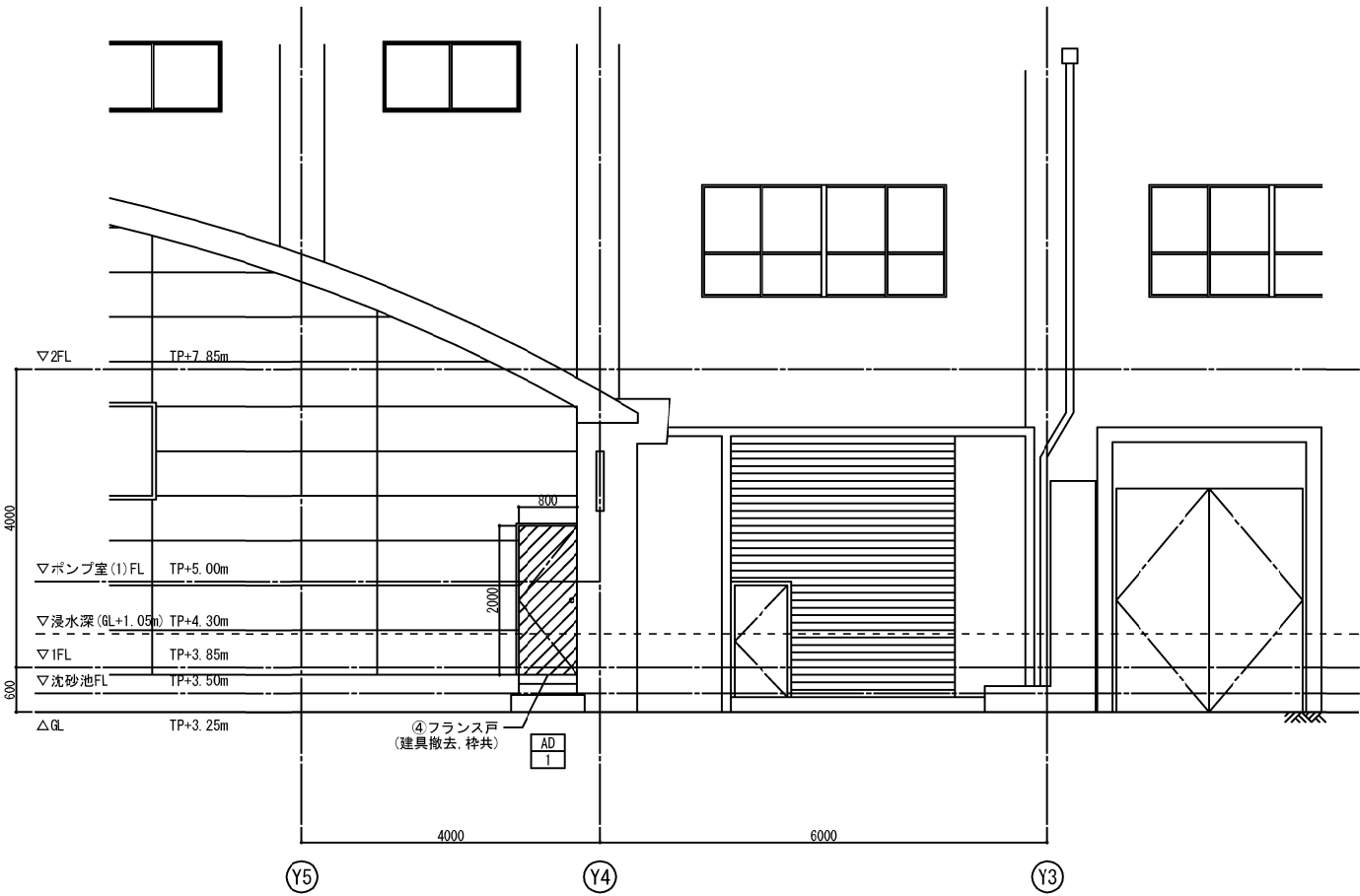


ドア見込み及び丁番表

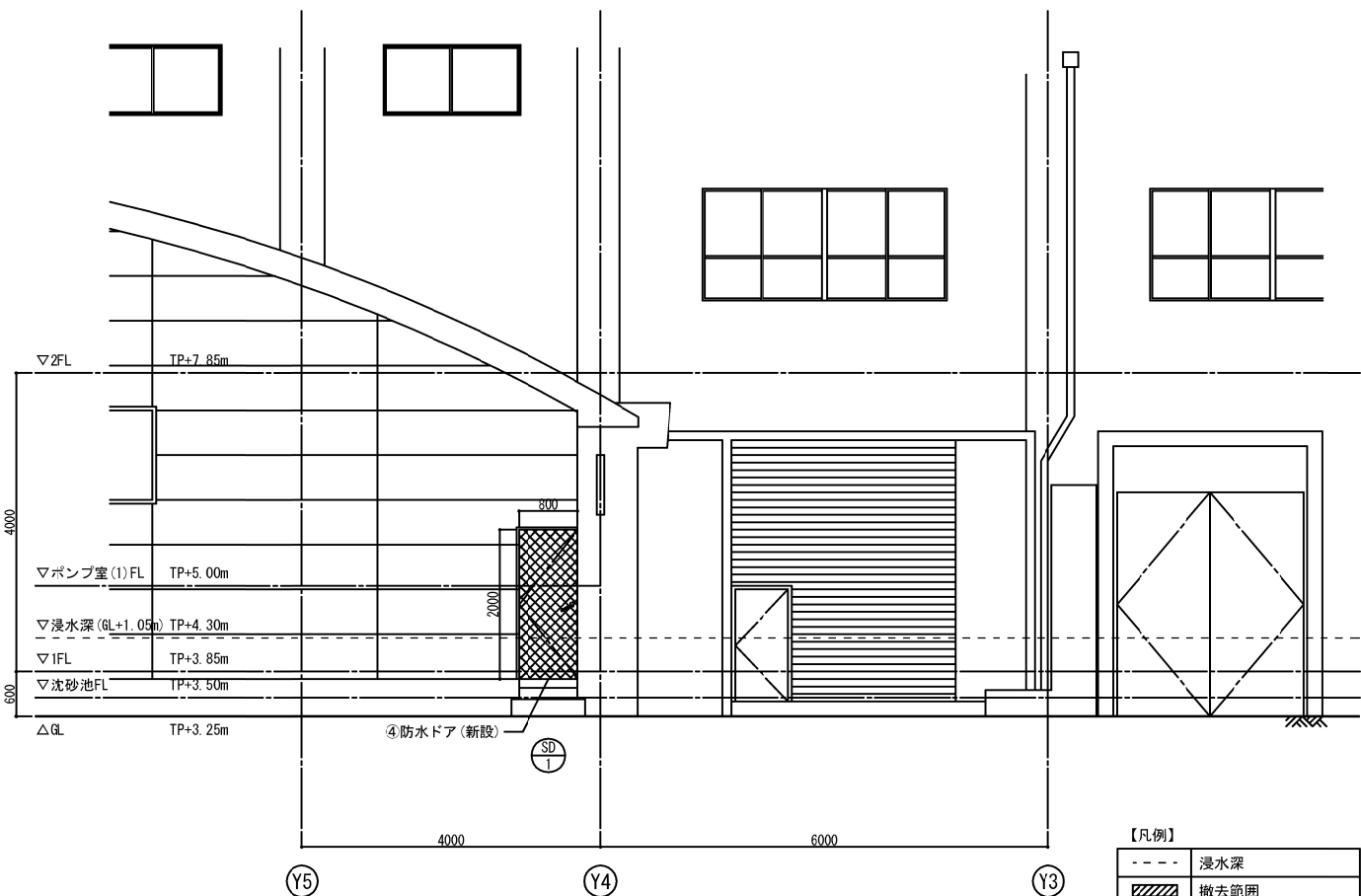
		大型							
H	W	1000未満		1250未満		1500未満		1750未満	
		大型	気密	大型	気密	大型	気密	大型	気密
2000未満	※	[40] 一般 (150) 3 枚	[40] 一般 (150) 3 枚	[40] 一般 (150) 3 枚	[50] 大型 (150) 3 枚	[50] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚
		[50] 大型 (150) 3 枚	[40] 一般 (150) 3 枚	[50] 大型 (150) 3 枚	[50] 大型 (150) 3 枚	[50] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚
2500未満	※	[50] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚
		[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚
3000未満	※	[50] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚
		[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚
3500未満	※	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚
		[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚	[60] 大型 (150) 3 枚

- [] 内数値は扉の見込寸法を示す。
- ※は「建築工事標準仕様」による。

令和 7 年度	
工 事 名	小山ポンプ場耐水化工事
工事場所	松戸市小山180番地
図面種別	建具改修詳細図(改修前後)
縮 尺	A1:図示 A3:図示
図面番号	全 22 葉ノ内 A-17 号
松戸市建設部下水道維持課	



北 立面図 (改修前) (A1:1/50, A3:1/100)

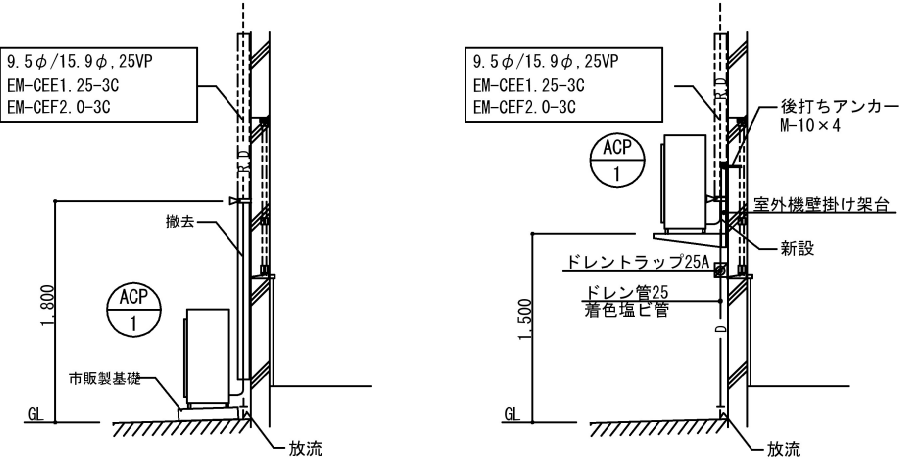


北 立面図 (改修後) (A1:1/50, A3:1/100)

【凡例】	
----	浸水深
	撤去範囲
	防水ドア設置範囲

既設機器表

記号	名称	能力：仕様	動力			台数	作業内容
			φ	V	KW (W)		
ACP-1	パッケージエアコン	形式：空冷ヒートポンプ空調機	3	200	3.43	1	既設室外機の移設(外壁部)に伴う関連作業
		能力：冷房 7.1KW, 暖房 8.0KW					1) 既設冷媒の引抜・保管 (R32-2.6kg)
		室外機：三菱電機 PUZ-ERW80HA8, 冷媒管 9.5φ/15.9φ					2) 既設冷媒管, ドレン管, 化粧カバー, 制御線の切断
		付属品：市販製基礎					3) 室外機の養生・保管
							4) 室外機用壁架台及び室外機の設置
							5) 既設冷媒管, ドレン管, 化粧カバーの接続
							6) 既設冷媒管の耐圧試験を行い漏れのないことを確認
							7) 冷媒の充填し平常運転を確認



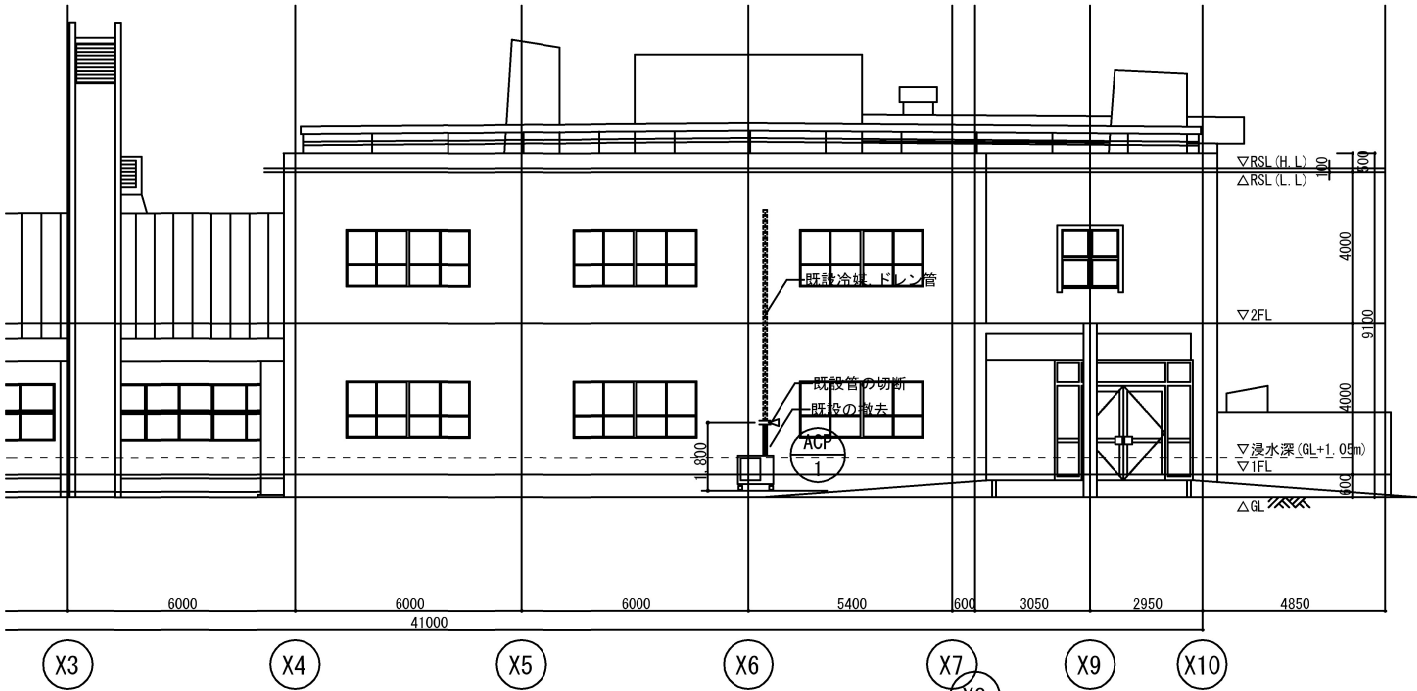
凡例

- 既設管との切放し再接続部分を示す。
- 撤去後新設配管を示す。
- 既設配管を示す。
- 浸水深を示す。

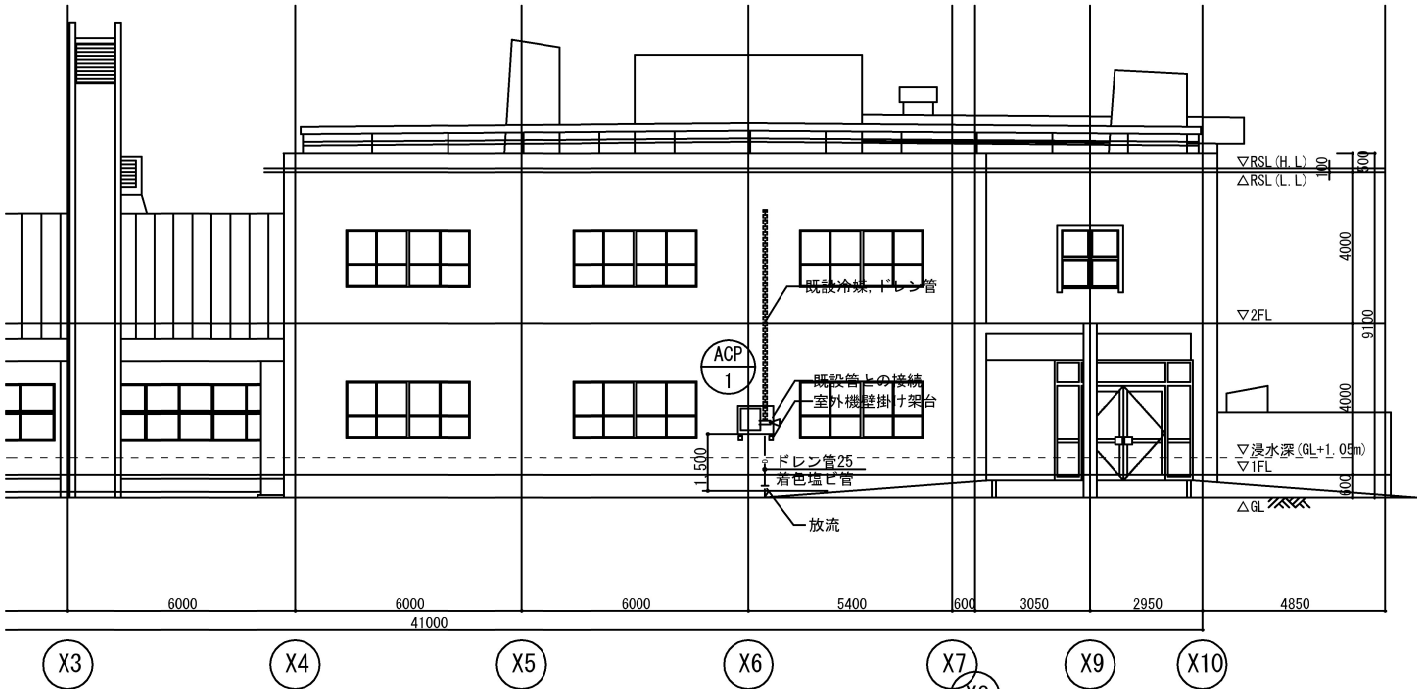
室外機壁掛け架台仕様(参考)

寸法(mm)	1100×965
仕上げ	溶融亜鉛メッキ
主要部材	圧縮鋼板2.3t, 3.2t
固定ボルト	M-10×4カ所
最大使用荷重(Kg)	150
付属品	防振絶縁ワッシャー
参考品番(バクマ工業)	B-PK16
個所数	1カ所

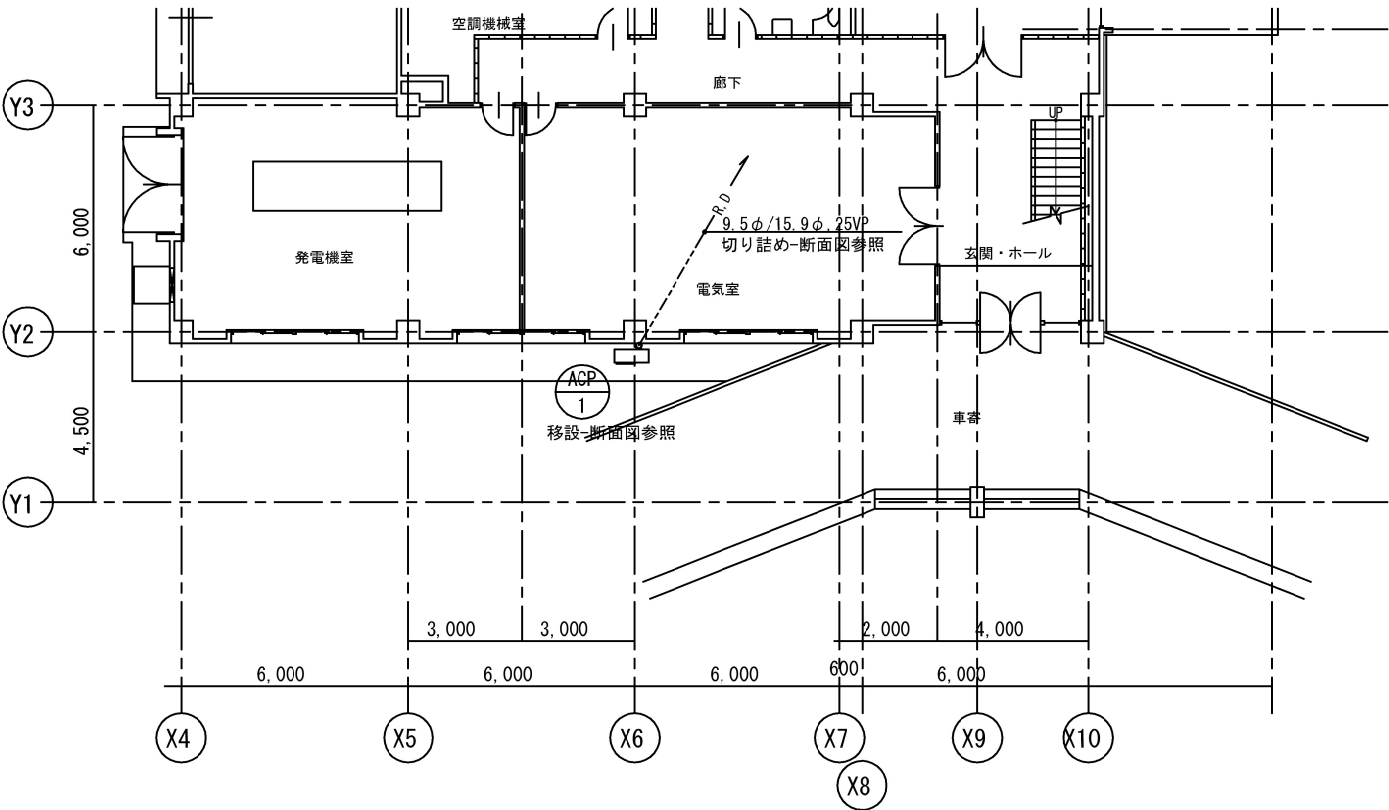
断面図 (改修前) (A1:1/30, A3:1/60) 断面図 (改修後) (A1:1/30, A3:1/60)



西立面図 (改修前) (A1:1/100, A3:1/200)



西立面図 (改修後) (A1:1/100, A3:1/200)



平面図 (A1:1/100, A3:1/200)

令和 7 年度	
工事名	小山ポンプ場耐水化工事
工事場所	松戸市小山180番地
図面種別	室外機改修詳細図(改修前後)
縮尺	A1:図示 A3:図示
図面番号	全 22 葉ノ内 AM-01 号
事業者名	松戸市 建設部 下水道維持課

